

令和3年度
(2021年)

農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島根県病害虫防除所

目 次

I. 事業の目的	1
II. 事業の実施の方針と概要	1
III. 事業対象有害動植物の種類	1
IV. 事業実施組織と本年度の実施方法	2
1. 病虫害防除所における予察事業担当者	2
2. 病虫害防除員	2
3. 予察圃場設置一覧	2
4. 予察灯・フェロモントラップの設置一覧	2
V. 事業内容	3
1. 令和3年度における調査観察成績	3
I) 普通作物等	3
(Ⅰ) イネ	3
1. イネの生育状況	3
2. 病虫害に関する調査結果	3
1) 稲こうじ病	3
2) 葉いもち	4
3) 穂いもち	5
4) 縞葉枯病	5
5) ばか苗病	6
6) もみ枯細菌病	6
7) 紋枯病	6
8) イネミズゾウムシ	8
9) コブノメイガ	9
10) セジロウンカ	11
11) ツマグロヨコバイ	13
12) トビイロウンカ	14
13) ニカメイガ	16
14) 斑点米カメムシ類	17
15) ヒメトビウンカ	18
16) フタオビコヤガ	19
(Ⅱ) ムギ	20
1. ムギの生育状況	20
2. 病虫害に関する調査結果	20
1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病	20
(Ⅲ) ダイズ	22
1. ダイズの生育状況	22
2. 病虫害に関する調査結果	22
1) アブラムシ類	22
2) ハスモンヨトウ	20
3) カメムシ類	23
4) その他の害虫類	23
II) 果樹	24

(I) ナシ	24
1. 病害虫に関する調査結果	24
1) 黒斑病、黒星病	24
2) ナシヒメシンクイ	27
3) ナシオオシンクイガ	28
4) モモシンクイガ	28
5) チャノコカクモンハマキ	29
6) チャハマキ	29
7) ハダニ類、カイガラムシ類	30
8) アブラムシ類	31
(II) カキ	32
1. 病害虫に関する調査結果	32
1) 炭疽病	32
2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病	32
3) カキミガ	35
4) カメムシ類	35
5) チャノコカクモンハマキ	36
6) チャハマキ	36
7) カキクダアザミウマ	36
8) フジコナカイガラムシ	37
(III) クリ	38
1. 病害虫に関する調査結果	38
1) モモノゴマダラノメイガ	38
2) クスサン	38
III) 野菜	39
(I) キャベツ	39
1. 病害虫に関する調査結果	39
1) 黒腐病	39
2) 菌核病	39
3) モンシロチョウ	39
4) コナガ	40
5) ヨトウガ	40
6) ウワバ類	40
7) アブラムシ類	40
8) ハスモンヨトウ	41
9) シロイチモジヨトウ	42
10) オオタバコガ	43
11) キスジノミハムシ	44
(II) タマネギ	45
1. 病害虫に関する調査結果	45
1) べと病	45
2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病	45
(III) イチゴ	46
1. 病害虫に関する調査結果	46
1) 灰色かび病	46

2) うどんこ病	46
3) 炭疽病	47
4) アブラムシ類	47
5) ハダニ類	48
6) アザミウマ類	48
7) コナジラミ類	48
IV) 花卉	49
(I) キク	49
1. 病害虫に関する調査結果	49
1) 白さび病	49
2) アザミウマ類	49
3) アブラムシ類	49
4) ハダニ類	50
V) 病害虫発生程度別面積	51
VI) 病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析	54
1. イネの病害虫	54
2. ムギの病害	55
3. ダイズの病害虫	55
4. ナシの病害虫	56
5. カキの病害虫	56
6. 夏秋キャベツの病害虫	57
7. 冬キャベツの病害虫	57
8. タマネギの病害虫	58
9. イチゴの病害虫	58
10. キクの病害虫	58
VII) 情報の提供、諸報告に関する事項	59
1. 情報の提供先	59
2. 発表状況	60
3. 発表内容	60
特殊報 第1号 キャベツ トビイロシロアリ	61
第2号 ネギ ネギハモグリバエ B系統	63
技術情報 第1号 タマネギ べと病	65
第2号 タマネギ 腐敗病・軟腐病	66
第3号 水稻 斑点米カメムシ類	67
VIII) 気象表	68

I 事業の目的

病害虫の防除を適時で経済的なものとするため、病害虫の発生、農作物の生育及び気象などの状況を調査して、病害虫の発生を予察しそれに基づく情報を関係者に提供する。

II 事業実施の方針と概要

指定有害動植物に重点をおき、これらの病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、農業普及部及び病害虫防除員などと連絡を密にし、確実な情報の収集に努め、発生予報、特殊報、注意報及びその他必要な情報をすみやかに提供して、適期防除による被害防止に努めた。また、JAなど生産者団体とは絶えず緊密な連絡をとり、重要な病害虫の発生に際しては、その都度資料を提示して適切な対策について協議決定し、防除に万全を期した。

III 事業対象有害動植物の種類

1. 普通作物等

- | | | |
|--------|-----|--|
| 1) イネ | 指 定 | 稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ |
| 2) ムギ | 指 定 | 赤かび病、うどんこ病 |
| 3) ダイズ | 指 定 | アブラムシ類、吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ |

2. 野菜

- | | | |
|---------|-----|--|
| 1) イチゴ | 指 定 | うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類 |
| 2) キャベツ | 指 定 | 菌核病、黒腐病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ |
| 3) タマネギ | 指 定 | 白色疫病、べと病 |

3. 果樹

- | | | |
|-------|-----|--|
| 1) カキ | 指 定 | 炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、果樹カメムシ類 |
| 2) ナシ | 指 定 | 黒星病、黒斑病、アブラムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、ハマキムシ類 |

4. 花き

- | | | |
|-------|-----|--------------------|
| 1) キク | 指 定 | 白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類 |
|-------|-----|--------------------|

5. 作物共通

- | | |
|-----|---|
| 措 定 | オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、果樹カメムシ類 |
|-----|---|

IV 事業実施組織と本年度の実施方法

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱、同要領に準拠する。

1. 病虫害防除所における予察事業担当者

職名	氏名	担当
科長	澤村信生	虫害
専門研究員	福間貴寿	病害
主任研究員	永島 進	病害
主任研究員	角菜津子	虫害
主任研究員	奈良井祐隆	虫害
研究員	山本隼佑	虫害
研究員	近藤亜美	病害

2. 病虫害防除員

水稻に関する病虫害防除員は、本県の主要産地である市町村に17名を配置している。

3. 予察圃場設置一覧

1) 県予察圃場

種類	設置場所	品種等
イネ	出雲市芦渡町	コシヒカリ
ムギ	〃	農林61号、サチホゴールド
ナシ	〃	二十世紀（46年生樹）
カキ	〃	富有（46年生樹）

2) 地区予察圃場

種類	設置地点名
イネ	邑智郡川本町田窪
ナシ	安来市中津町
カキ	出雲市東福町

4. 予察灯・フェロモントラップ設置一覧

病虫害名	設置場所	備考
ウンカ類	出雲市芦渡町	予察灯
ウンカ類	〃	粘着誘殺灯
ニカメイチュウ	〃	フェロモントラップ
モモシクイガ	安来市中津町	〃
ナシヒメシクイ	〃	〃
ヨトウガ類	益田市飯田町	〃

V 事業内容

1. 令和3年度における調査観察成績

I) 普通作物等

(I) イネ

1. イネの生育状況

1) 生育概況

草丈は、生育期間を通じて葉色が平年並みから濃い傾向であったことと併せて、5月中旬及び6月中から7月上旬が高温・日照不足で推移したことから、全般に長い傾向となった。茎数は、移植後5月中旬が日照不足となったため生育前半は平年並みからやや少なかった。5月下旬から6月上旬にかけて概ね好天に恵まれたことから生育は回復し、最高分げつ期となる6月中旬から下旬には平年並みからやや多い草姿となった。幼穂形成期から出穂期にあたる7月中旬から8月上旬が多照傾向であったこと、葉色が全般に濃かった（栄養状態が良かった）こと等により分げつ茎の退化が少なく、穂数は平年と比較して多くなった。一方で、穂数の増加に伴い一穂粒数はやや少なくなった。出穂後は、8月第2から5半旬の日照時間が平年の34%と少なかったが、気温が低めで推移したことから夜間の呼吸消費は例年より少なかったと推定され、登熟期間の日照不足の影響が緩和された可能性がある。こうしたことから、ハナエチゼン、コシヒカリでは登熟歩合が高く、つや姫、きぬむすめでは穂数が平年比1割以上増加したことによる単位面積当たりの粒数増により、収量は全般に高くなった。一方、現場においては、7月上旬及び8月上旬の豪雨による浸冠水、穂いもちやセジロウカが多発、紋枯病による倒伏のほか、特に5月下旬以降に田植えを行ったきぬむすめでは、登熟期間の日照不足等により屑米が多発し、収量が低下する事例も見られた。なお、農林水産省による作物統計調査では、穂数は「平年並み」で1穂当たりもみ数は「やや多い」ことから、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「やや多い」となったものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用に加え、8月中旬から9月上旬の日照不足等の影響により登熟が「やや不良」となり、10a当たり収量は521kg（出雲：529kg、石見：505kg）と、前年産に比べ10kg増加し、ふるい目1.9mmでの作況指数は100の平年並み（出雲：101、石見：100）となった。病害虫に関しては、5月31日及び8月2日に病害虫防除所からセジロウカに関する情報が発表され、県東部の一部の地域では、多発によるすす病が確認されるなどの被害が発生した。いもち病に関しては、6月25日、7月9日、19日、30日、8月23日にいもち情報が発表されるなど感染好適日が多く出現し、県東部の「きぬむすめ」を中心に穂いもちの被害が発生した。また、8月2日には、主にアカスジカムミカメを中心とした斑点米カメムシ類に関する技術情報が発表され、「ハナエチゼン」、「きぬむすめ」では格下げ理由の上位を占めることとなった。

2) 作柄及び検査概況

令和3年産は、登熟期間の日照不足により玄米への養分転流が不十分となったことから、「ハナエチゼン」は整粒不足、カメムシ類、「つや姫」は整粒不足、心白腹白、「コシヒカリ」では心白腹白、整粒不足、「きぬむすめ」は整粒不足、カメムシ類が落等理由の上位を占めており、特に「つや姫」の一等米比率は平年と比較して大幅に低下した。

（2021年産水稲・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋）

2. 病害虫に関する調査結果

1) 稲こうじ病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	調査ほ場数	発病ほ場率	調査株数	発病株率	株当たり病斑数
9月中旬	きぬむすめ	115	20.9 %	5750	1.65 %	0.04

2) 葉いもち

(1) 発病状況調査

① 定点における調査

○ 県予察圃場 (出雲市芦渡町)

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 14	33.3 cm	12.7 本	0 %	0
	24	48.1	15.6	0	0
	7. 5	68.8	21.6	0	0
	14	85.4	20.3	0	0
	27	104.3	19.1	0	0
	8. 3	107.2	18.6	0	0
窒素増量区	6. 14	33.1	14.9	0	0
	24	47.0	16.9	0	0
	7. 5	66.9	21.6	0	0
	14	86.2	21.0	0	0
	27	99.1	19.7	0	0
	8. 3	105.2	19.3	0	0

注) 調査株数: 50 株、品種: コシヒカリ (5月7日植え)

○ 地区予察圃場 (川本町田窪)

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 15	38.2 cm	10.6 本	0 %	0
	25	51.8	14.5	0	0
	7. 6	59.1	20.3	0	0
	15	76.0	19.2	0	0
	26	85.2	18.8	0	0
	8. 4	86.4	18.6	0	0

注) 調査株数: 50 株、品種: コシヒカリ

② 巡回における調査 (特定圃場)

ア. 出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	0	0	0
14	5.3	0.2	0.05
27	5.3	0.4	0.11
8. 3	5.3	0.4	0.11

注) 20 圃場、500 株調査

イ. 雲南市 (大東町、加茂町)

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	20.0	1.0	0.25
14	45.0	23.6	5.90
27	45.0	28.6	7.15
8. 3	45.0	30.6	7.65

注) 20 圃場、500 株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 15	0 %	0 %	0
25	0	0	0
7. 6	0	0	0
15	0	0	0
26	3.5	0.3	0.07
8. 4	6.9	0.3	0.21

注) 30 圃場、750 株調査

3) 穂いもち

(1) 発病状況調査

① 定点における調査

○ 県予察圃場 (出雲市芦渡町)

区別	8月25日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %
窒素増量区	0	0

○ 地区予察圃場 (川本町田窪)

区別	8月26日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %

注) 調査株数 : 50 株

② 巡回における調査

調査地域	調査月日	調査圃場数	発生圃場率	調査穂数	発病穂率
出雲市	8.25	20	5.3 %	9175 本	0.01 %
雲南市 (大東町、加茂町)	8.26	20	15.0	8870	0.98
大田市、邑智郡、江津市	8.26	30	10.3	14950	0.07
合計・平均		70	10.2	32995	0.35

4) 縞葉枯病

(1) 発病状況調査

① 巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率	発病度
6月中旬	70	0 %	1750 株	0 %	0
6月下旬	70	0	1750	0	0
7月上旬	70	0	1750	0	0
7月中旬	70	0	1750	0	0
7月下旬	70	0	1750	0	0
8月上旬	70	0	1750	0	0
8月下旬	70	0	1750	0	0

5) ばか苗病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査ほ場数	発生ほ場率	調査株数	発病株率
6月下旬	70	0 %	1750 株	0 %
7月下旬	70	0	1750	0

6) もみ枯細菌病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	調査ほ場数	発生ほ場数	調査株数	発病株数	調査穂数	発病穂数
9月中旬	きぬむすめ	115	7	5750 株	8 株	63225 本	8 本

7) 紋枯病

(1) 発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 14	33.3 cm	12.7 本	0 %	0
	24	48.1	15.6	0	0
	7. 5	68.8	21.6	0	0
	14	85.4	20.3	0	0
	27	104.3	19.1	0	0
	8. 3	107.2	18.6	0	0
	25	106.1	18.1	0	0
	窒素増量区	6. 14	33.1	14.9	0
24		47.0	16.9	0	0
7. 5		66.9	21.6	0	0
14		86.2	21.0	2.0	0.5
27		99.1	19.7	2.0	0.5
8. 3		105.2	19.3	4.0	1.0
25		98.9	19.3	8.0	3.5

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月7日植え)

○地区予察圃場（川本町田窪）

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 15	38.2 cm	10.6 本	0 %	0
	25	51.8	14.5	0	0
	7. 6	59.1	20.3	0	0
	15	76.0	19.2	0	0
	26	85.2	18.8	0	0
	8. 4	86.4	18.6	0	0
	26	98.9	17.8	0	0

注) 調査株数：50 株、品種：コシヒカリ

②巡回による調査（特定圃場）

ア. 出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	0	0	0
14	0	0	0
27	0	0	0
8. 3	0	0	0
25	10.5	0.4	0.16

注) 20 圃場、500 株調査

イ. 雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	0	0	0
14	0	0	0
27	5.0	1.6	0.40
8. 3	10.0	2.4	0.60
25	35.0	5.0	1.85

注) 20 圃場、500 株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 15	0 %	0 %	0
25	0	0	0
7. 6	0	0	0
15	3.5	0.1	0.03
26	6.9	0.6	0.14
8. 4	10.3	0.8	0.21
26	17.2	1.2	0.72

注) 30 圃場、750 株調査

8) イネミズゾウムシ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.6	8.1	6	8.2
2	0	0.0	2	0	1.4	2	3	4.3
3	0	0.0	3	0	0.5	3	0	3.2
4	1	0.0	4	0	0.5	4	0	1.3
5	0	0.0	5	0	0.9	5	0	0.4
6	0	0.2	6	0	5.3	6	0	0.9
5.1	1	8.9	7.1	2	1.7	9.1	1	0.7
2	0	6.3	2	21	4.7	2	0	0.1
3	34	1.6	3	11	3.3	3	0	0.0
4	0	14.8	4	28	10.1	4	0	0.0
5	7	1.5	5	8	16.6	5	0	0.0
6	1	3.1	6	10	10.9	6	0	0.0
総 計							134	112.0

(2) 巡回による調査

① 5月24日～28日調査

	圃場数	被害程度別株数 (25株/圃場)					合計
		A	B	C	D	E	
東部平坦	24	106	55	22	70	347	600
東部山間	6	0	0	0	5	145	150
西部平坦	16	0	0	0	44	356	400
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合 計	46	106	55	22	119	848	1150
平 均		2.3	1.2	0.5	2.6	18.4	25.0
被害株率 (%)							26.3
被害度							16.3

イネミズゾウムシ被害程度 (被害葉率)

A : 91%以上, B : 61~90%, C : 31~60%, D : 1~30%, E : 0

9) コブノメイガ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点 月・半旬	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.5
8.1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.1
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.4
6	0	0.0	0	1.3
9.1	0	0.0	0	1.9
2	0	0.0	0	2.6
3	0	0.0	0	0.3
4	0	0.0	0	0.2
5	0	0.0	0	0.3
6	0	0.0	0	0.4
総計	0	0.2	0	8.7

注) 予察灯は4～9月(4～5月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点における調査

① 6月22～25日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合計	46	0	0
平均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

② 7月 28～30 日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合 計	46	0	0
平 均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

③ 8月 24～27 日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合 計	46	0	0
平 均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

10) セジロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点 月・半月	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0.0	—	—
2	0	0.0	—	—
3	0	0.0	—	—
4	1	0.0	—	—
5	0	0.0	—	—
6	0	0.0	—	—
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	1.2	0	2.4
4	1	0.1	0	0.1
5	0	1.3	3	0.0
6	1	1.6	2	0.2
7.1	16	1.6	17	5.2
2	39	7.7	2	61.2
3	0	3.7	17	14.4
4	0	0.6	0	3.1
5	0	13.7	0	1.2
6	0	3.7	0	28.4
8.1	2	0.9	2	5.8
2	0	1.6	1	8.5
3	0	5.1	2	6.2
4	0	6.4	1	17.1
5	0	3.9	3	17.1
6	2	9.7	8	55.8
9.1	0	4.3	10	12.4
2	0	18.6	2	5.9
3	0	1.8	1	10.0
4	0	1.7	1	1.7
5	0	1.5	1	0.2
6	0	0.3	0	2.4
総計	62	91.0	73	259.3

注) 予察灯は4～9月(4月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月22～25日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	0	4	4
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	1	11	12
西部山間	0	-	-	-
合計	46	1	15	16
平均		0.0	0.3	0.3
圃場率 (%)		2.2	13.0	15.2
成虫比				6.3

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

② 7月28～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	17	857	874
東部山間	6	3	97	100
西部平坦	16	117	1742	1859
西部山間	0	-	-	-
合計	46	137	2696	2833
平均		3.0	58.6	61.6
圃場率 (%)		39.1	93.5	93.5
成虫比				4.8

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

③ 8月24～8月27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	355	1390	1745
東部山間	6	3	3	6
西部平坦	16	116	667	783
西部山間	0	-	-	-
合計	46	474	2060	2534
平均		10.3	44.8	55.1
圃場率 (%)		30.4	63.0	67.4
成虫比				18.7

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

11) ツマグロヨコバイ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	1	0.1	8.1	2	50.5
2	0	0.0	2	1	0.2	2	1	22.3
3	0	0.0	3	2	0.6	3	0	28.3
4	0	0.1	4	2	0.9	4	0	7.4
5	0	0.1	5	0	3.5	5	0	2.4
6	0	0.0	6	0	6.4	6	0	8.2
5.1	0	1.6	7.1	1	10.1	9.1	4	43.4
2	0	0.4	2	3	9.2	2	0	22.0
3	0	0.0	3	0	10.5	3	0	39.8
4	0	0.0	4	17	9.4	4	0	4.7
5	0	0.0	5	0	69.7	5	0	2.5
6	0	0.0	6	5	94.2	6	0	1.6
総計							39	450.1

(2) 定点と巡回による調査

① 6月22～25日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	5	2	7
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	2	0	2
西部山間	0	-	-	-
合計	46	7	2	9
平均		0.2	0.0	0.2
圃場率 (%)		8.7	4.3	10.9
成虫比				77.8

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 7月28～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	17	67	84
東部山間	6	0	4	4
西部平坦	16	8	11	19
西部山間	0	-	-	-
合計	46	25	82	107
平均		0.5	1.8	2.3
圃場率 (%)		26.1	30.4	43.5
成虫比				23.4

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月24～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	21	101	122
東部山間	6	2	12	14
西部平坦	16	10	20	30
西部山間	0	-	-	-
合計	46	33	133	166
平均		0.7	2.9	3.6
圃場率 (%)		17.4	26.1	28.3
成虫比				19.9

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

12) トビイロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点 月・半月	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0.0	-	-
2	0	0.0	-	-
3	0	0.0	-	-
4	0	0.0	-	-
5	0	0.0	-	-
6	0	0.0	-	-
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7.1	0	0.0	0	0.0
2	2	0.3	0	1.1
3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.3	0	0.0
6	0	0.4	0	0.3
8.1	0	0.2	0	1.0
2	0	0.1	0	0.2
3	0	0.1	0	0.1
4	0	0.1	0	0.8
5	0	0.7	0	3.4
6	0	1.0	0	7.2
9.1	0	0.8	0	14.2
2	0	0.8	0	18.3
3	0	0.1	0	25.3
4	0	0.5	0	9.4
5	0	0.3	0	1.4
6	0	0.4	0	2.9
総計	2	6.2	0	85.7

注) 予察灯は4～9月（4～5月はデータ省略）、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月22～25日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	46	0	0	0	0	0	0
平均		0	0	0	0	0	0
圃場率 (%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

② 7月25～27日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	46	0	0	0	0	0	0
平均		0	0	0	0	0	0
圃場率 (%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

③ 8月24～27日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	1	0	5	1	7
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	46	0	1	0	5	1	7
平均		0	0.0	0	0.1	0.0	0.2
圃場率 (%)		0	2.2	0	6.5	2.2	6.5
成虫比							85.7

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

13) ニカメイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	8.5	8.1	0	1.4
2	0	0.0	2	1	3.4	2	0	1.7
3	0	0.0	3	4	1.4	3	0	1.5
4	0	0.0	4	0	2.1	4	0	0.5
5	0	0.5	5	1	0.4	5	0	0.2
6	0	0.2	6	0	0.1	6	0	0.8
5.1	0	0.3	7.1	0	0.5	9.1	0	0.2
2	0	0.3	2	0	0.0	2	0	0.2
3	0	1.3	3	0	0.1	3	0	0.0
4	0	3.0	4	1	0.5	4	0	0.4
5	0	6.9	5	0	1.4	5	0	0.0
6	0	16.6	6	0	4.5	6	0	0.0
						総計	7	58.9

② 半旬別誘殺表 (フェロモントラップ)

地点 月・半旬	出雲市芦渡町		地点 月・半旬	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	7.1	1	0.7
2	0	0.0	2	3	0.4
3	0	0.2	3	0	0.5
4	1	0.3	4	0	1.4
5	1	0.4	5	0	1.9
6	2	1.3	6	0	6.5
5.1	1	2.3	8.1	3	5.6
2	3	9.8	2	6	4.8
3	3	10.4	3	0	3.7
4	5	11.4	4	6	5.8
5	1	31.0	5	2	2.3
6	5	29.3	6	1	4.3
6.1	2	26.8	9.1	1	3.2
2	3	11.7	2	1	3.6
3	5	8.6	3	0	1.1
4	1	3.0	4	0	0.2
5	0	1.6	5	1	2.0
6	1	1.4	6	1	0.9
			総計	60	198.4

(2) 定点と巡回による調査

調査日	6月22～25日		7月28～30日		8月24～27日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	0	24	1	24	0
東部山間	6	0	6	0	6	0
西部平坦	16	0	16	0	16	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	0	46	1	46	0
平均		0		0.0		0
圃場率 (%)		0		2.2		0
被害株率 (%)		0		0.1		0

注) 調査方法: 25株見取り調査

14) カメムシ類

(1) 予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.8	8.1	9	20.4
2	0	0.0	2	3	1.4	2	5	14.3
3	0	0.0	3	0	5.1	3	0	9.1
4	0	0.0	4	5	3.3	4	0	7.0
5	0	0.0	5	6	6.8	5	0	6.6
6	0	0.0	6	32	13.7	6	0	5.0
5.1	0	0.0	7.1	33	18.0	9.1	0	6.0
2	0	0.0	2	24	25.9	2	0	3.2
3	0	0.1	3	11	18.3	3	0	1.8
4	3	0.2	4	28	17.1	4	0	0.7
5	2	0.6	5	8	27.5	5	0	0.6
6	0	1.3	6	10	24.4	6	0	2.9
総計							179	238.7

(2) 巡回による調査

① 6月26日調査(畦畔・雑草地など)

	すくい取り虫数(20回振り・成幼虫)							合計
	圃場数	ホソハリ	シラホシ	トゲシラホシ	クモヘリ	アカスジ	アカヒゲ	
平均	34	0.3	0.0	0.0	0.0	15.1	2.4	17.4
採取圃場率		11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	61.8%	38.2%	58.8%

② 7月28～7月30日調査(コシヒカリが出穂した圃場)

	すくい取り虫数(20回振り・成幼虫)							合計
	圃場数	ホソハリ	シラホシ	トゲシラホシ	クモヘリ	アカスジ	アカヒゲ	
平均	42	0.6	0.0	0.2	0.2	5.0	0.4	6.6
採取圃場率		23.8%	0.0%	7.1%	16.7%	45.2%	11.9%	61.9%

15) ヒメトビウンカ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点 月・半月	出雲市芦渡町		地点 月・半月	出雲市芦渡町		地点 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.0	8.1	0	0.3
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.2
4	0	0.0	4	1	0.0	4	0	0.3
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.1
6	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.2
5.1	0	0.0	7.1	1	0.0	9.1	0	0.1
2	0	0.0	2	2	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.1	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.1
5	0	0.1	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.3	6	0	0.0
総計							4	2.0

(2) 定点と巡回による調査

① 6月22～25日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	7	17	24
東部山間	6	0	1	1
西部平坦	16	4	45	49
西部山間	0	-	-	-
合計	46	11	63	74
平均		0.2	1.4	1.6
圃場率(%)		17.4	23.9	34.8
成虫比				14.9

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 7月28～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	14	147	161
東部山間	6	1	2	3
西部平坦	16	30	198	228
西部山間	0	-	-	-
合計	46	45	347	392
平均		1.0	7.5	8.5
圃場率(%)		39.1	69.6	71.7
成虫比				11.5

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月24～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	13	94	107
東部山間	6	16	26	42
西部平坦	16	11	36	47
西部山間	0	-	-	-
合計	46	40	156	196
平均		0.9	3.4	4.3
圃場率 (%)		47.8	54.3	69.6
成虫比				20.4

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

16) フタオビコヤガ

(1) 定点と巡回による調査

調査日	6月22～25日		7月28～30日		8月24～27日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	12	24	0	24	0
東部山間	6	0	6	0	6	1
西部平坦	16	1	16	0	16	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	13	46	0	46	1
平均		0.3		0		0.0
圃場率 (%)		8.7		0		2.2
被害株率 (%)		1.1		0		0.1

注) 調査方法：25株見取り調査

II) ムギ

1. ムギの生育状況

1) 生育概況

令和3年産の麦作では、好天に恵まれたことからほ場準備は順調に進み、播種作業は10月下旬から12月上旬にかけて行われ、発芽とその後の生育は良好であった。1月になると低温や積雪のため草丈は短く茎数はやや少なく、一部で葉先枯れが発生したものの、2月以降が高温・多照傾向で推移したことから茎数は平年並みに回復し、生育は平年より早くなり、二条大麦の出穂期は3月中旬から4月上旬と、平年と比較して10日程度早くなった。出穂後も好天に恵まれたことから登熟は順調に進み、一部で黒節病や湿害、凍霜害、鳥害等が見られたものの、生育や収量への影響は少なかった。梅雨入りは5月12日と平年と比較して25日早くなり、5月中旬以降は曇雨天が続いたため収穫作業に遅れは出たものの、二条大麦では千粒重が平年と比較して大きくなったため、収量は平年比109%と多くなった。

2) 作柄及び検査概況

1月の低温・積雪により草丈はやや短く、茎数もやや少なかったが、2月以降の好天により茎数は平年並みに回復し、出穂期以降も天候に恵まれたことから登熟も良好となり、収量の平年対比は小麦が121%、二条大麦は109%、はだか麦は150%と多く、品質も収穫時期に曇雨天が続いたものの、概ね平年並みとなった。

(2021年産水稲・麦類・大豆の作柄概況(農業技術センター技術普及部)より抜粋)

3) 生育状況調査

○県予察圃場(出雲市芦渡町)

品種	3月9日	3月19日	
	草丈	茎数(100cm)	草丈
サチホゴールド	51.2 cm	143.3 本	58.8 cm
ミナミノカオリ	44.5	108.0	56.4

注) 播種日と出穂期

サチホゴールド: R2年11月6日、R3年3月16日

ミナミノカオリ: R2年11月6日、R3年3月29日

2. 病害虫に関する調査結果

1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病

(1) 発病状況調査

① 定点における調査

○県予察圃場(出雲市芦渡町)

品種	さび病類			うどんこ病		
	3月29日	4月24日	5月14日	3月29日	4月24日	5月14日
サチホゴールド	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %
ミナミノカオリ	0	0	0	0	0	0

注) 表中の数字は発病茎率

雲形病、斑葉病、赤かび病の発生はみられなかった。

②巡回による調査

ア. オオムギ(二条)

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R3. 3. 23	出雲市	35	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
4. 22	出雲市	35	0	0	0	0	0	0
5. 13	出雲市	35	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、雲形病の発生は認められなかった。

イ. オオムギ(六条)

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R3. 3. 23	出雲市	5	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
4. 22	出雲市	5	0	0	0	0	0	0
5. 13	出雲市	5	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、斑葉病の発生は認められなかった。

ウ. コムギ

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	赤さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R3. 3. 23	出雲市	15	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
3. 24	松江市	15	6. 7	0. 3	0	0	0	0
4. 22	出雲市	15	0	0	0	0	0	0
4. 23	松江市	15	60. 0	25. 9	0	0	0	0
5. 13	出雲市	15	0	0	0	0	0	0
5. 14	松江市	15	86. 7	59. 7	0	0	0	0

注) 黄さび病の発生は認められなかった。

(Ⅲ) ダイズ

1. ダイズの生育状況

1) 生育概況

播種は早いところで6月初旬から始まったが、梅雨入りが5月12日と平年と比較して25日早く、5月中旬以降の曇雨天や7月7日及び12日の豪雨により浸冠水したほ場もあり、作業の遅れやまき直し等により、播種作業が終了したのは8月上旬となった。梅雨明けは平年と比較して6日早い7月13日となったが、8月第2から第4半旬にかけて曇雨天の日が多く、特に8月9日の台風9号及び13から14日にかけての豪雨により、湿害や倒伏の発生が見られた。また、大豆の生育が不良となったことから雑草の発生も多くなり、生育は平年並みから10日程度遅くなった。9月以降は好天に恵まれたものの、湿害や雑草繁茂による生育不良等により着莢数は少なくなった。また、一部でハスモンヨトウによる葉の食害も目立った。収穫作業は10月末から始まったが、11月中旬にかけて曇雨天の日が多かったため、作業は遅れ気味となった。また、湿害や雑草害等により、作柄はやや不良と見込まれる。

(2021年産水稻・麦類・大豆の作柄概況(農業技術センター技術普及部)より抜粋)

2. 病害虫に関する調査結果

1) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

① 半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

2) ハスモンヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

キャベツのハスモンヨトウの項に掲載。

(2) 被害状況調査

① 巡回による調査(出雲市斐川地区)

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
R3.7.26	19	0	0
8.27	18	27.8	0.33
9.10	27	66.7	2.19
9.27	22	59.1	2.23

注) 調査方法:調査ほ場の畦畔に立ち、目視で1aの白変葉を数えた。

② 巡回による調査(益田市安富・横田地区)

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数	備考
R3.7.27	16	0	0	
8.30	16	43.8	0.69	一部のほ場で雑草が多かった。

注) 調査方法:調査ほ場の畦畔に立ち、目視で1aの白変葉を数えた。

3) カメムシ類

(1) フェロモントラップによる成虫の誘殺状況

①旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

ホソヘリカメムシフェロモン

月. 旬	ホソヘリカメムシ 頭	イチモンジカメムシ 頭	備考
7. 上	13	1	ホソヘリ幼虫1頭
中	8	1	
下	3	0	
8. 上	9	1	
中	49	0	
下	11	0	
9. 上	6	1	
中	4	0	
下	1	0	
10. 上	1	1	
中	3	0	
下	4	0	
合計	112	5	

イチモンジカメムシフェロモン

月. 旬	ホソヘリカメムシ 頭	イチモンジカメムシ 頭	備考
7. 上	6	1	
中	3	0	
下	2	1	
8. 上	12	1	
中	8	2	
下	5	0	
9. 上	2	0	
中	1	1	
下	1	1	
10. 上	2	3	
中	0	2	
下	1	0	
合計	43	12	

注) 農技センター内ダイズ圃場横に設置。トラップは富士フレイバー製乾式トラップ(商品名フェールドキャッチボックストラップ)を用い、各トラップは10m以上離れた。ルアーは6個を用い、約一ヶ月毎に交換した。誘殺数は2~14日毎に調べ、日割り計算後旬毎に整数でまとめた。端数が出る場合には前後の誘殺数から勘案して丸めた。

4) その他の害虫類

(1) 寄生状況調査

①巡回による調査(益田市安富・横田地区)

調査年月日	圃場No.	捕獲種、頭数
R3. 7. 27	1	フタジヒメハムシ成虫15頭、不明ウワバ幼虫1頭
8. 30	1	フタジヒメハムシ成虫15頭、不明ウワバ幼虫4頭、イチモンジカメムシ成虫1頭

注) 調査方法：直径60cmの白布を株の生え際に斜めに立てかけ、連続した株を10株たたき、株上にいる虫を落とした。たたき回数は3回とした。

II) 果樹

※圃場 No. は連番とはせず、過去の調査と比較しやすいように固有番号としている。

(I) ナシ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 黒斑病、黒星病

(1) 発病状況調査 (1 圃場 10 新梢の全葉について調査。4 月下旬、5 月上旬は幼果について 1 圃場 100 果実調査)

① 定点における調査

地区予察圃場 (安来市中津町、二十世紀、慣行散布) 調査結果は圃場 NO.7 に記載。

② 巡回による調査 (安来市、慣行散布)

ア. 2021年4月21日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査果実数	発病果率 (%)
5	二十世紀	76	0	76	0	0	0	0	100	0
7	二十世紀	87	0	87	0	0	0	0	100	0
10	二十世紀	74	0	74	0	0	0	0	100	1.0
14	二十世紀	68	0	68	0	0	0	0	100	0
15	二十世紀	69	0	69	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	78	0	78	0	0	0	0	100	0
18	幸水	72	0	72	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		75	0	75	0	0	0	0	100	0.3

イ. 2021年5月6日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査果実数	発病果率 (%)
5	二十世紀	92	0	92	0	0	0	0	100	0
7	二十世紀	102	0	102	1.0	0.2	0	0	100	0
10	二十世紀	76	0	76	0	0	0	0	100	4.0
14	二十世紀	115	0	115	0	0	0	0	100	0
15	二十世紀	108	0	108	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	110	0	110	0	0	0	0	未調査	
18	幸水	82	0	82	未調査	未調査	0	0	100	0
19	二十世紀	113	0	113	0	0	0	0	100	0
20	幸水	98	0	98	未調査	未調査	0	0	100	0
21	幸水	109	0	109	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		101	0	101	0.1	0.0	0	0	100	0.8

ウ. 2021年5月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	135	0	135	0	0	0	0
7	二十世紀	167	0	167	1.2	0.3	0	0
10	二十世紀	128	0	128	0	0	0	0
14	二十世紀	155	0	155	3.9	1.0	0	0
15	二十世紀	161	0	161	0.6	0.2	0	0
17	二十世紀	167	0	167	1.8	0.4	0	0
18	幸水	118	0	118	未調査	未調査	0	0
19	二十世紀	164	0	164	0	0	0	0
20	幸水	135	0	135	未調査	未調査	0	0
21	幸水	148	0	148	未調査	未調査	0	0
平均		148	0	148	1.1	0.3	0	0

エ. 2021年6月23日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	178	0	178	5.1	1.3	0	0
7	二十世紀	238	0	238	12.6	3.6	0	0
14	二十世紀	240	0	240	3.8	0.9	0	0
15	二十世紀	227	0	227	3.5	1.0	0	0
17	二十世紀	239	0	239	8.4	2.4	0	0
18	幸水	159	0	159	未調査	未調査	6.9	1.7
19	二十世紀	232	0	232	3.4	0.9	0	0
20	幸水	169	0	169	未調査	未調査	0.6	0.1
21	幸水	168	0	168	未調査	未調査	0.6	0.1
平均		206	0	206	6.1	1.7	0.9	0.2

オ. 2021年7月26日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
7	二十世紀	222	0	222	14.9	5.0	0.9	0.2
14	二十世紀	234	0	234	7.7	2.9	0	0
15	二十世紀	232	0	232	3.9	1.3	0.4	0.1
17	二十世紀	237	0	237	16.5	5.4	0.4	0.1
18	幸水	159	0	159	未調査	未調査	0	0
19	二十世紀	240	0	240	7.1	2.2	0	0
20	幸水	213	0.9	211	未調査	未調査	0.5	0.1
21	幸水	177	0	177	未調査	未調査	2.3	0.6
平均		214	0.1	214	10.0	3.3	0.6	0.1

カ. 2021年8月26日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	193	0	193	3.1	0.8	0	0
7	二十世紀	210	1.0	208	19.2	6.6	0.5	0.1
14	二十世紀	239	0	239	13.8	6.7	0	0
15	二十世紀	207	0	207	1.0	0.2	0	0
17	二十世紀	189	0	189	17.5	8.5	0	0
18	幸水	155	0	155	未調査	未調査	1.3	0.3
19	二十世紀	216	0.5	215	27.0	10.3	0	0
20	幸水	213	1.4	210	未調査	未調査	0	0
21	幸水	177	0	177	未調査	未調査	0	0
平均		200	0.3	199	13.6	5.5	0.2	0.1

2) ナシヒメシンクイ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				地区予察圃場(安来市中津町)	
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	13	0.3	0	0.0
2	0	0.0	4	0.2	0	0.9
3	0	0.0	8	1.8	0	3.7
4	0	0.0	12	4.2	0	6.8
5	0	0.0	6	4.2	0	21.5
6	0	0.0	2	6.4	0	16.7
5. 1	0	0.0	0	5.7	0	22.8
2	0	0.0	4	3.9	0	28.0
3	0	0.0	1	3.9	0	6.3
4	0	0.0	0	1.9	0	10.5
5	0	0.0	0	0.5	0	14.2
6	0	0.0	4	1.1	5	6.3
6. 1	0	0.0	1	1.2	15	12.3
2	0	0.0	4	6.3	14	8.4
3	0	0.0	2	3.4	0	22.9
4	0	0.0	5	1.5	24	19.0
5	0	0.0	2	1.0	0	11.2
6	0	0.0	6	0.3	15	27.0
7. 1	0	0.0	0	1.4	13	6.7
2	0	0.0	0	1.5	0	15.0
3	0	0.0	2	0.9	10	12.1
4	0	0.0	0	4.6	0	14.9
5	0	0.0	4	4.1	12	18.2
6	0	0.0	3	2.0	13	21.2
8. 1	0	0.0	3	0.5	4	6.8
2	0	0.0	3	2.3	0	17.2
3	0	0.0	2	2.1	5	8.3
4	0	0.0	0	0.8	6	22.1
5	0	0.0	0	0.6	0	11.3
6	0	0.0	2	0.3	0	12.7
9. 1	0	0.0	3	1.4	0	10.6
2	0	0.1	3	1.9	0	7.0
3	0	0.0	2	1.8	0	2.5
4	0	0.0	2	0.2	0	1.8
5	0	0.0	1	0.0	0	1.7
6	0	0.0	0	0.0	0	0.7
10. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.1	104	74.2	136	429.3

3) ナシオオシンクイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)		月. 半旬	地区予察圃場(安来市中津町)	
	本年	平年		本年	平年
4. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
5. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	10. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
7. 1	0	0.0	合計	0	0.0
2	0	0.0			
3	0	0.0			
4	0	0.0			
5	0	0.0			
6	0	0.0			

4) モモシンクイガ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表(モモシンクイガ)

月. 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)		月. 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.0	8	13.9
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	11.1
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	4	20.0
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	10	10.9
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	8	19.1
6	0	0.0	2	1.7	6	0	0.0	0	9.4
6. 1	0	0.0	8	9.4	9. 1	0	0.0	0	2.0
2	0	0.0	6	18.3	2	0	0.0	0	1.3
3	0	0.0	3	18.9	3	0	0.0	0	1.6
4	0	0.0	18	11.5	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	7	19.6	5	0	0.0	0	0.9
6	0	0.0	10	20.9	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	11	21.6	10. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	16.9	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	8.4	3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	7	10.5	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	2	9.9	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	6	13.1	6	0	0.0	0	0.0
					合計	0	0.0	110	270.8

5) チャノコカクモンハマキ

(1) 成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ			水銀灯(100W)		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	4	0.0	8. 1	3	0.0	0	0.9
2	0	0.0	3	0.2	2	0	0.7	18	1.0
3	0	0.0	10	0.4	3	0	0.6	13	0.4
4	0	0.0	9	3.3	4	0	0.8	10	1.7
5	0	0.1	23	3.1	5	1	0.1	10	2.9
6	0	0.0	6	4.7	6	2	0.7	17	0.9
5. 1	0	0.4	8	3.3	9. 1	4	0.7	26	0.6
2	1	0.6	19	5.0	2	1	1.0	38	2.2
3	0	0.8	17	3.0	3	3	1.0	22	1.0
4	3	1.1	1	3.0	4	3	0.1	29	2.9
5	1	0.8	3	2.3	5	1	0.5	18	1.9
6	0	0.3	1	1.3	6	0	0.1	5	0.0
6. 1	0	0.3	0	0.8	10. 1	0	0.3	0	0.0
2	0	0.8	0	1.4	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.6	1	1.0	3	0	0.1	0	0.0
4	0	1.0	4	4.1	4	0	0.3	0	0.0
5	2	0.8	14	0.4	5	0	0.0	0	0.0
6	1	0.4	9	0.9	6	0	0.0	0	0.9
7. 1	1	0.3	0	1.0	合計	27	17.1	374	62.9
2	0	0.6	14	0.8					
3	0	0.4	4	1.8					
4	0	0.1	0	2.2					
5	0	0.5	8	1.1					
6	0	0.2	10	0.3					

6) チャハマキ

(1) 成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ			水銀灯(100W)		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.2	0	0.0
2	0	0.0	0	0.1	2	3	0.5	0	0.9
3	0	0.0	0	1.1	3	0	0.4	0	1.2
4	0	0.0	0	3.0	4	0	0.7	0	0.2
5	0	0.0	4	2.3	5	1	1.0	0	0.0
6	0	0.0	3	1.8	6	0	1.3	0	0.0
5. 1	3	0.0	1	1.6	9. 1	0	0.1	4	1.4
2	2	0.2	2	1.7	2	0	0.1	7	0.8
3	1	0.5	4	1.8	3	5	0.7	8	0.6
4	5	0.7	0	0.1	4	0	0.4	3	0.4
5	0	0.4	0	1.9	5	0	0.3	12	0.1
6	3	0.6	0	0.7	6	0	0.3	6	0.7
6. 1	3	0.5	2	0.9	10. 1	0	0.2	1	0.1
2	1	0.3	0	1.2	2	0	0.0	3	0.1
3	2	0.6	0	0.8	3	0	0.0	0	0.3
4	0	0.7	0	0.2	4	0	0.0	0	0.0
5	0	1.1	0	0.8	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.5	0	1.3	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.4	1	0.8	合計	34	15.2	64	36.2
2	0	0.2	0	1.6					
3	3	1.4	0	1.2					
4	0	0.0	2	2.8					
5	0	0.5	0	1.2					
6	2	0.4	1	0.6					

7) ハダニ類、カイガラムシ類

(1) 越冬バンドトラップによる越冬密度調査

調査場所	No.	カンザワハダニ		クワコナカイガラムシ	
		本年	平年	本年	平年
中津町地区圃	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0
	3	-	-	0	0.0
	4	-	-	0	0.0
島田町	1	0	2.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
平均		0	0.4	0	0.0

注) 1. トラップは幅20cmのクラフト紙を太枝に巻き付けた。
2. 1圃3個設置。トラップ当たり虫数

(2) 発生状況調査

①巡回による調査(特定圃場)

調査月日		4月下旬	5月下旬		6月下旬		7月下旬		8月下旬	
圃場	No.	花叢率	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数
地区予察圃場	1	0.0	0.0	0.0	10.7	40.0	64.0	145.0	0.0	0.0
	2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.5
島田	1	2.0	0.0	0.0	32.4	92.5	4.0	5.0	0.0	0.0
	2	4.0	4.0	5.0	0.0	0.0	28.0	45.0	12.0	20.0
	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	290.0	0.0	0.0
	4	0.0	0.0	0.0	18.0	45.0	-	-	2.0	2.5
	5	-	4.0	5.0	-	-	-	-	2.0	2.5
平均		1.3	1.1	1.4	10.2	29.6	36.8	97.0	2.6	3.9

注) 1. 50花叢・50葉調査

2. 寄生雌成虫数は寄生程度別葉数から算出

寄生程度

A: 1~5 頭/葉

虫数=2.5A+7.5B+15C+25D

B: 6~10

C: 11~20

D: 21~

E: 0

8) アブラムシ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査(特定圃場)

調査月日		4月下旬		5月下旬		6月下旬	
圃場	No.	寄生 梢率	寄生度	寄生 梢率	寄生度	寄生 梢率	寄生度
		%		%		%	
地区予察圃場	1	2.0	0.5	2.0	2.0	6.0	4.0
	2	0.0	0.0	12.0	4.5	0.0	0.0
島田	1	8.0	2.0	4.0	1.0	4.3	1.6
	2	10.0	3.0	12.0	5.5	8.0	3.0
	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5
	5	-	-	2.0	0.5	-	-
平均		3.3	0.9	4.6	1.9	3.4	1.5

注) 1. 圃場当たり50梢調査

$$2. \text{寄生度} = \frac{4A+3B+2C+D}{4 \times N(\text{調査新梢数})} \times 100$$

A: 先端4葉全てに寄生

B: " 3葉に寄生

C: " 2葉 "

D: " 1葉 "

E: 寄生なし

(II) カキ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 炭疽病

(1) 発病状況調査

(6～8月に1圃場1樹50新梢、7～10月に1圃場1樹50果実について調査)

① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布)調査結果は圃場NO.1に記載

② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病

(1) 発病状況調査(1圃場1樹10新梢の全葉について調査。灰色かび病については7月に1圃場1樹50果実について調査)

① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布)調査結果は圃場NO.1に記載

② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

ア. 2021年4月23日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	灰色かび病発病葉率 (%)
1	富有	81	0	81	0
6	西条	56	0	56	1.8
8	西条	68	0	68	1.5
10	富有	75	0	75	0
11	富有	78	0	78	0
12	富有	77	0	77	0
13	富有	80	0	80	0
14	富有	80	0	80	0
平均		74	0	74	0.4

イ. 2021年5月26日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	うどんこ病		灰色かび病
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)
1	富有	98	0	98	0	0	0
6	西条	74	5.4	70	0	0	8.6
8	西条	74	0	74	0	0	8.1
10	富有	96	0	96	0	0	0
11	富有	103	0	103	0	0	0
12	富有	102	0	102	0	0	0
13	富有	93	0	93	0	0	1.1
14	富有	76	0	76	0	0	0
平均		90	0.7	89	0	0	2.2

ウ. 2021年6月24日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	103	0	103	0	0	0	0	1.0	0
6	西条	72	5.6	68	0	0	0	0	2.9	0
8	西条	96	6.3	90	0	0	0	0	6.7	0
10	富有	108	0	108	0	0	0	0	0.9	0
11	富有	109	0	109	0	0	0	0	1.8	0
12	富有	110	0	110	0	0	0	0	0	0
13	富有	102	0	102	0	0	0	0	1.0	0
14	富有	98	0	98	0	0	0	0	0	0
平均		100	1.5	99	0	0	0	0	1.8	0

エ. 2021年7月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	89	0	89	0	0	0	0	0	0
6	西条	63	3.2	61	0	0	37.7	9.4	1.6	2.0
8	西条	76	9.2	69	0	0	0	0	4.3	0
10	富有	95	2.1	93	0	0	4.3	1.1	0	0
11	富有	119	0	119	0	0	0	0	0.8	0
12	富有	93	0	93	0	0	2.2	0.5	0	0
13	富有	119	0	119	0	0	0	0	2.5	0
14	富有	81	0	81	0	0	0	0.5	0	0
平均		92	1.8	91	0	0	5.5	1.4	1.2	0.3

オ. 2021年8月24日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度
1	富有	89	2.2	87	0	0	3.4	0.9
6	西条	65	12.3	57	0	0	52.6	28.5
8	西条	72	12.5	63	0	0	0	0
10	富有	89	1.1	88	0	0	17.0	4.3
11	富有	101	1.0	100	0	0	0	0
12	富有	98	1.0	97	0	0	6.2	1.5
13	富有	95	0	95	0	0	0	0
14	富有	92	0	92	0	0	0	0
平均		88	3.8	85	0	0	9.9	4.4

カ. 2021年9月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		円星落葉病		角斑落葉病	
					発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	
1	富有	89	1.1	88	0	13.6	3.7	0	0	0	0	
6	西条	66	10.6	59	0	78.0	56.8	0	0	1.7	0.4	
8	西条	66	7.6	61	0	4.9	2.5	0	0	0	0	
10	富有	103	0	103	0	58.3	18.7	0	0	0	0	
11	富有	116	3.4	112	2.0	0	0	0	0	0	0	
12	富有	106	0	106	6.0	32.1	10.1	0	0	0	0	
13	富有	105	0	105	0	33.3	14.0	1.0	0.2	0	0	
14	富有	96	0	96	0	3.1	0.8	0	0	0	0	
平均		93	2.8	91	1.0	27.9	13.3	0.1	0.0	0	0	

キ. 2021年10月26日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		円星落葉病		角斑落葉病	
					発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	
1	富有	85	7.1	79	4.0	55.7	15.2	0	0	0	0	
6	西条	59	3.4	57	0	96.5	72.4	14.0	3.5	0	0	
8	西条	63	23.8	48	0	68.8	28.1	8.3	2.1	0	0	
10	富有	105	1.9	103	0	91.3	35.2	0	0	0	0	
11	富有	103	0	103	0	0	0	1.9	0.5	0	0	
12	富有	87	1.1	86	0	73.3	23.3	0	0	0	0	
13	富有	99	0	99	0	37.4	18.4	20.2	6.1	2.0	0.5	
14	富有	100	0	100	2.0	20.0	5.0	0	0	0	0	
平均		88	4.7	84	0.8	55.4	24.7	5.6	1.5	0.3	0.1	

3) カキミガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

県予察圃場（出雲市芦渡町）での誘殺は認めなかった。

(2) 被害の発消長調査

出雲市の一般圃場5園において5月下旬～8月下旬に5回各園100果について調査を行ったが被害は認めなかった。

4) カメムシ類

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況（水銀灯 100W）

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ		アオクサカメムシ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	21	26.2	1	1.8	1	2.1	0	0.1
4	55	34.7	0	9.8	3	8.1	0	0.0
5	7	6.1	0	0.2	0	4.1	0	0.0
6	0	6.7	0	1.0	0	2.2	0	0.0
6. 1	3	5.0	0	0.2	4	2.1	0	0.0
2	5	3.9	0	0.0	1	0.4	0	0.0
3	28	6.8	1	0.9	0	13.4	0	0.0
4	5	6.8	0	0.0	4	0.9	0	0.0
5	6	5.9	0	0.3	0	3.9	0	0.0
6	0	23.6	0	4.0	0	21.0	0	0.0
7. 1	6	47.3	0	8.7	0	7.1	0	0.0
2	51	62.4	6	15.3	2	19.7	0	0.3
3	10	45.3	10	23.3	2	15.6	0	0.6
4	10	72.3	3	46.8	0	12.3	1	0.3
5	20	56.3	7	54.3	0	22.7	0	0.4
6	20	103.8	6	92.1	2	27.7	1	0.8
8. 1	31	114.3	25	67.7	10	22.3	2	0.3
2	39	128.7	14	58.1	10	26.1	0	0.4
3	31	160.0	8	63.2	13	56.8	1	0.0
4	119	186.7	43	61.6	27	70.6	0	0.2
5	374	207.4	49	53.9	29	50.0	0	0.2
6	869	147.2	203	27.8	50	43.3	0	0.0
9. 1	81	41.1	3	5.2	6	10.8	0	0.1
2	70	45.9	1	2.1	5	5.3	0	0.0
3	20	65.7	1	2.6	6	18.1	0	0.0
4	19	29.3	0	0.6	15	12.8	0	0.1
5	38	13.1	0	0.0	11	8.1	0	0.0
6	33	9.0	0	0.4	13	6.8	0	0.0
10. 1	37	0.3	2	0.0	16	5.7	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	10	0.0	0	0.0
3	14	0.0	0	0.0	15	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	3	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	2022	1661.9	383	601.9	258	500.7	5	3.8

5) チャノコカクモンハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャノコカクモンハマキの項に掲載

6) チャハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャハマキの項に掲載

7) カキクダアザミウマ

(1) 粘着トラップによる誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

①越冬成虫の誘殺状況

月.日	誘殺数	月.日	誘殺数	月.日	誘殺数
4. 11	0	4. 21	0	5. 1	0
12	0	22	0	2	0
13	0	23	0	3	0
14	0	24	0	4	0
15	0	25	0	5	0
16	0	26	0	6	0
17	0	27	0	7	0
18	0	28	0	8	0
19	0	29	0	9	0
20	0	30	0	10	0
				合計	0

②第1世代成虫の誘殺状況

第一世代成虫の誘殺状況

月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年
6. 1	0	-	7. 1	0	-	8. 1	0	-
2	1	-	2	0	-	2	0	-
3	3	-	3	0	-	3	0	-
4	1	-	4	0	-	4	0	-
5	2	-	5	0	-	5	0	-
6	2	-	6	0	-	6	0	-
						合計	9	-

8) フジコナカイガラムシ

(1) フェロモントラップによる誘殺状況 (一般圃場：出雲市東福町)

月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数
3. 1	-	6. 1	4	9. 1	38
2	-	2	8	2	68
3	-	3	5	3	83
4	-	4	0	4	51
5	-	5	0	5	34
6	-	6	0	6	21
4. 1	-	7. 1	8	10. 1	6
2	-	2	21	2	2
3	-	3	34	3	0
4	-	4	51	4	1
5	0	5	4	5	0
6	13	6	1	6	0
5. 1	29	8. 1	23	11. 1	0
2	12	2	5	2	0
3	56	3	17	3	0
4	13	4	18	4	0
5	29	5	45	5	0
6	3	6	53	6	0

(2) 果実の被害状況

○一般圃場 (出雲市)

調査月日	調査果数	カメムシ		カキクダアザミウマ		コナカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害 果数	被害 果率	被害* 梢数	被害 梢率	被害 果数	被害 果率	被害 果数	被害 果率
4. 23	-	-	-	0	0.0	0	0.0	-	-
5. 10	-	-	-	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 28	600	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 24	800	0	0.0	0	0.0	7	0.9	0	0.0
7. 26	800	0	0.0	0	0.0	7	0.9	16	2.0
8. 23	800	0	0.0	0	0.0	4	0.5	0	0.0
9. 28	700	6	0.9	0	0.0	14	2.0	0	0.0

注) * : 各園100新梢、計800新梢調査

(3) 定点における調査

①収穫果実の被害調査

○一般圃場 (出雲市)

調査月日	調査果数	カメムシ		カキクダアザミウマ		コナカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 梢率(%)	被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 果率(%)
10, 26	700	10	1.4	0	0.0	186	26.6	26	3.7

(Ⅲ) クリ

1. 病害虫に関する調査結果

1) モモノゴマダラノメイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年
5. 1	0	0.0	8. 1	0	0.2
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.1
4	0	0.0	4	1	0.2
5	0	0.0	5	0	0.4
6	0	0.0	6	1	0.0
6. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1
2	0	0.3	2	1	0.0
3	0	0.4	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	2	0.5	5	0	0.0
6	1	0.1	6	0	0.1
7. 1	0	0.2	10. 1	0	0.0
2	1	0.3	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.1	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.5	6	0	0.0
			合計	7	3.5

2) クスサン

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年
8. 1	0	0.0	9. 1	0	0.2	10. 1	4	11.8
2	0	0.0	2	0	0.9	2	0	9.1
3	0	0.0	3	0	1.5	3	0	2.7
4	0	0.0	4	0	0.9	4	0	0.1
5	0	0.2	5	0	3.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	4	4.5	6	0	0.0
						合計	8	34.9

Ⅲ) 野菜

(I) キャベツ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 黒腐病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市、松江市

調査年月日	作型	調査圃場数	黒腐病	
			発生圃場率(%)	発生株率(%)
2021年9月24日	夏秋	7	0	0
	冬	14	7.1	0.1
11月15日	夏秋	3	0	0
	冬	9	22.2	0.7

注) 調査株数：50 株/圃場。

2) 菌核病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市、松江市

調査年月日	作型	調査圃場数	菌核病	
			発生圃場率(%)	発生株率(%)
2021年9月24日	夏秋	7	14.3	0.3
	冬	14	0	0
11月15日	夏秋	3	33.3	0.7
	冬	9	11.1	0.2

注) 調査株数：50 株/圃場。

3) モンシロチョウ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2021年 8月27日	7	14.3	1.4	0.14
9月16日	7	14.3	1.4	0.28
9月27日	11	0	0	0
10月21日	7	0	0	0

注) 調査株数：10 株/圃場

4) コナガ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当たり虫数
2021年 8月27日	7	57.1	5.7	0.86
9月16日	7	14.3	1.4	0.14
9月27日	11	9.1	0.9	0.09
10月21日	7	0	0	0

注) 調査株数：10株/圃場

5) ヨトウガ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

モンシロチョウと同時に調査を行ったが、寄生は認められなかった。

6) ウワバ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当たり虫数
2021年 8月27日	7	28.6	2.9	0.29
9月16日	7	0	0	0
9月27日	11	18.2	1.8	0.18
10月21日	7	14.3	1.4	0.14

注) 調査株数：10株/圃場

7) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

(2) 発生状況調査

②巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当たり虫数
2021年 8月27日	7	28.6	7.1	1.9
9月16日	7	42.9	4.3	1.1
9月27日	11	54.5	15.7	36.4
10月21日	7	14.3	1.4	4.9

注) 調査株数：10株/圃場、モモアカアブラムシとネセダアブラムシが寄生していた。

8) ハスモンヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年
4. 1	0	0.5	6. 3	8	54.8	8. 5	44	49.2
2	0	0.1	4	4	60.5	6	32	78.7
3	1	0.5	5	5	49.2	9. 1	358	100.2
4	0	1.2	6	1	52.9	2	110	100.2
5	0	0.2	7. 1	28	80.4	3	274	75.8
6	0	0.3	2	182	63.2	4	147	81.6
5. 1	1	0.6	3	125	43.9	5	118	59.1
2	1	2.5	4	51	41.2	6	17	40.1
3	5	5.6	5	13	25.5	10. 1	7	60.1
4	90	5.0	6	1	24.1	2	6	55.4
5	93	7.2	8. 1	14	19.5	3	11	65.3
6	64	3.6	2	235	31.3	4	23	47.7
6. 1	17	8.3	3	404	34.0	5	16	33.8
2	6	19.4	4	144	33.8	6	15	41.4
注) 農技センター屋上設置。*: 平成23年～令和2年の平均値						総 計	2671	1558.2

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年
5. 1	1	4.5	7. 1	7	71.3	9. 1	243	120.9
2	2	3.4	2	11	48.2	2	268	124.4
3	2	11.5	3	15	28.6	3	258	79.8
4	62	16.5	4	16	37.4	4	145	195.8
5	113	19.5	5	1	29.5	5	209	140.3
6	111	10.6	6	0	35.1	6	63	108.7
6. 1	13	10.6	8. 1	4	23.8	10. 1	25	179.9
2	5	10.7	2	25	35.7	2	21	138.1
3	3	21.3	3	65	51.5	3	79	117.0
4	4	39.7	4	21	46.3	4	190	96.3
5	6	50.0	5	28	63.5	5	95	94.5
6	4	64.0	6	40	145.5	6	203	143.8
注) *: 平成23年～令和2年の平均値						総 計	2358	2418.2

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2021年 8月27日	7	0	0	0
9月16日	7	0	0	0
9月27日	11	27.3	12.9	7.0
10月21日	7	14.3	2.9	17.1

注) 調査株数：10株/圃場

9) シロイチモジヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	
4. 1	0	0.0	6. 3	0	1.0	8. 5	15	2.5	
2	0	0.0	4	0	0.2	6	22	9.4	
3	0	0.0	5	0	2.7	9. 1	5	10.1	
4	0	0.0	6	0	2.4	2	1	12.8	
5	0	0.0	7. 1	1	0.3	3	9	7.4	
6	0	0.0	2	3	0.1	4	3	2.5	
5. 1	0	0.0	3	3	0.7	5	7	5.8	
2	0	0.0	4	2	1.2	6	1	3.0	
3	0	0.6	5	1	1.1	10. 1	0	8.6	
4	38	0.3	6	0	0.9	2	0	1.6	
5	19	0.1	8. 1	2	0.8	3	0	1.0	
6	8	0.2	2	0	4.0	4	0	0.4	
6. 1	0	0.0	3	0	2.3	5	0	0.3	
2	0	0.1	4	2	1.9	6	0	0.1	
注) 農技センター屋上設置。*: 平成23年～令和2年の平均値							総計	142	86.0

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	
5. 1	0	0.0	7. 1	7	4.9	9. 1	61	32.8	
2	0	0.1	2	15	2.0	2	10	28.9	
3	2	0.5	3	6	4.6	3	86	29.7	
4	20	0.8	4	5	4.0	4	11	34.8	
5	42	0.3	5	2	1.8	5	16	42.3	
6	23	0.3	6	5	3.9	6	4	19.4	
6. 1	3	1.0	8. 1	10	6.8	10. 1	8	40.3	
2	1	1.1	2	22	4.3	2	1	18.9	
3	0	2.2	3	9	11.7	3	1	16.2	
4	3	2.2	4	7	14.0	4	1	15.0	
5	0	2.7	5	14	11.3	5	0	9.2	
6	14	5.5	6	90	21.1	6	0	4.5	
注) *: 平成23年～令和2年の平均値							総計	499	399.1

(2) 発生状況調査

① 巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当たり虫数
2021年 8月27日	7	0	0	0
9月16日	7	0	0	0
9月27日	11	18.2	1.8	1.9
10月21日	7	14.3	1.4	1.43

注) 調査株数：10株/圃場

10) オオタバコガ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
4. 1	0	0.0	6. 3	0	0.0	8. 5	0	0.0
2	0	0.0	4	0	0.0	6	1	0.2
3	0	0.0	5	0	0.0	9. 1	0	0.0
4	0	0.0	6	0	0.0	2	0	1.1
5	1	0.1	7. 1	0	0.0	3	0	0.2
6	0	0.0	2	0	0.0	4	1	1.0
5. 1	0	0.0	3	0	0.0	5	0	1.3
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.0
3	0	0.0	5	0	0.0	10. 1	1	0.3
4	0	0.0	6	0	0.0	2	0	0.4
5	0	0.0	8. 1	0	0.0	3	0	0.9
6	0	0.0	2	0	0.0	4	1	0.2
6. 1	0	0.0	3	1	0.0	5	1	0.0
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.5
注) 農技センター屋上設置。 *: 平成23年～令和2年の平均値						総計	5	6.2

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
5. 1	1	0.1	7. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1
2	1	0.0	2	0	0.1	2	0	0.1
3	0	0.2	3	0	0.1	3	0	0.2
4	0	0.4	4	0	0.2	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.5
6	0	0.1	6	0	0.0	6	2	0.1
6. 1	1	0.0	8. 1	0	0.0	10. 1	0	1.9
2	0	0.2	2	0	0.1	2	0	0.8
3	0	0.1	3	1	0.2	3	0	0.6
4	0	0.0	4	0	0.2	4	20	0.5
5	1	0.5	5	0	0.0	5	11	0.5
6	0	0.2	6	0	0.1	6	5	1.0
注) *: 平成23年～令和2年の平均値						総計	43	9.1

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2021年 8月27日	7	0	0	0
9月16日	7	14.3	1.4	0.43
9月27日	11	9.1	0.9	0.09
10月21日	7	0	0	0

注) 調査株数：10株/圃場

11) キスジノミハムシ

(1) 発生状況調査

モンシロチョウと同時に調査を行った。

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2021年 8月27日	7	0	0	0
9月16日	7	0	0	0
9月27日	11	18.2	1.8	0.18
10月21日	7	0	0	0

注) 調査株数 : 10 株/圃場

(Ⅱ) タマネギ

1. 病害虫に関する調査結果

1) ペト病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
2021年3月26日	30	33.3	947580	0.064
4月19日	28	32.1	8400	2.02
5月19日	20	60	6000	10.4

2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	白色疫病		ボトリチス属菌による葉枯症		腐敗病・軟腐病	
		発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)
2021年3月26日	30	33.3	1.9	3.3	0.1	46.7	1.8
4月19日	28			7.1	0.1	57.1	3.4
5月19日	20			35	0.6	75	5.1

注) 調査株数：300株/圃場。

(Ⅲ) イチゴ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 灰色かび病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果実率 (%)
2021年3月30日	10	60	9.2	3675	0.84	3420	0	2655	0.15
4月21日	10	60	2.8	4705	0.15	2475	0	1560	0
10月28日	9	0	0	1195	0				
12月2日	10	10	0.4	2200	0	2020	0	2020	0.05
12月22日	10	30	4.4	2385	0.6	1730	0	1600	0.25
2022年2月24日	8	37.5	7	2315	0.5	2100	0	1815	0.2

注) 調査株数：25～50 株/圃場。

2) うどんこ病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果実率 (%)
2021年3月30日	10	10	0.8	3675	0	3420	0	2655	0.08
4月21日	10	10	2	4705	0.06	2475	0	1560	0.06
6月30日	7	14.3	13.1	590	10				
7月28日	7	14.3	0.6	550	0.4				
8月24日	5	0	0	540	0				
10月28日	9	0	0	1195	0				
12月2日	10	30	3.6	2200	0.09	2020	0.05	2020	0.5
12月22日	10	20	4.8	2385	0.04	1730	0.12	1600	1.1
2022年2月24日	8	25	4	2315	0	2100	0.05	1815	0.4

注) 調査株数：25～50 株/圃場。

3) 炭疽病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
2021年6月30日	7	0	3500	0
7月28日	7	42.9	3500	0.4
8月24日	5	80	2500	1.3
10月28日	9	77.8	4500	2.2

注) 調査株数：500株/圃場。

4) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
4. 1	4	1.8	7. 1	59	27.2	10. 1	11	27.6
2	7	3.0	2	44	9.3	2	7	14.2
3	18	4.0	3	4	16.8	3	3	15.5
4	18	10.2	4	8	10.2	4	0	10.8
5	11	10.8	5	11	7.9	5	2	18.7
6	40	25.6	6	7	10.7	6	8	28.3
5. 1	35	32.7	8. 1	4	8.4	総計	795	1004.2
2	33	30.9	2	2	9.2			
3	32	34.5	3	4	5.5			
4	21	42.6	4	2	13.8			
5	23	43.0	5	3	16.0			
6	18	51.8	6	16	15.5			
6. 1	26	54.3	9. 1	20	17.4			
2	39	60.0	2	21	14.1			
3	43	74.2	3	28	20.8			
4	37	69.5	4	41	17.3			
5	16	35.5	5	15	15.4			
6	15	52.9	6	39	16.3			

注) 1 黄色水盤：径 20 cm、深さ 18 cm、ライシメータ上に設置。

2 調査：令和 3 年(2022 年)4 月から 10 月に 3～7 日おきに飛び込み有翅虫数を調査した。

3 *：平成 23 年～令和 2 年(2020)までの平均値。

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査圃場数	ワタアブラムシ				チュールップヒゲナガアブラムシ			
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)	寄生小葉率(%)	寄生花率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	寄生小葉率(%)	寄生花率(%)
2021年3月30日	9	33.3	8.3	1.5	2.9	0	0	0	0
4月21日	9	11.1	6.7	3.0	6.2	0	0	0	0

注) 調査株数：20 株(1 株 3 複葉)/圃場、調査花数：50 花/圃場。発生圃場率は株調査で示した。

5) ハダニ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査 圃場数	カンザワハダニ			ナミハダニ		
		発生 圃場率(%)	寄生 株率(%)	寄生小 葉率(%)	発生 圃場率(%)	寄生 株率(%)	寄生小 葉率(%)
2021年3月30日	9	0	0	0	66.7	31.1	22.8
4月21日	9	0	0	0	77.8	52.2	31.1

注) 調査株数：20 株(1 株 3 複葉)/圃場

6) アザミウマ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2021年3月30日	9	44.4	5.1
4月21日	9	55.6	12.9

注) 調査花数：50 花/圃場。寄生種はヒラズハナアザミウマであった。

7) コナジラミ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

アブラムシ類と同時に調査を行ったが、寄生は認められなかった。

IV) 花卉

(I) キク

1. 病害虫に関する調査結果

1) 白さび病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 ほ場数	白さび病	
		発生ほ場率 (%)	発病葉率 (%)
2021年 5月31日	4	0	0
7月 1日	4	0	0
8月11日	4	0	0
9月16日	4	25.0	0.24
10月28日	4	0	0

2) アザミウマ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率 (%)	被害茎頂率 (%)
2021年 5月31日	4	25.0	6.5
7月 1日	4	25.0	0.5
8月11日	4	50.0	10.5
9月16日	4	0	0
10月28日	4	25.0	0.5

注) 調査茎頂数：50 茎頂／圃場

3) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率 (%)	寄生茎頂率 (%)
2021年 5月31日	4	50.0	6.5
7月 1日	4	25.0	1.5
8月11日	4	0	0
9月16日	4	25.0	1.0
10月28日	4	0	0

注) 調査茎頂数：50 茎頂／圃場、寄生種はワタアブラムシであった。

4) ハダニ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 圃場数	茎におけるハダニ類の有無			支柱における ハダニ類の有無	
		発生 圃場率(%)	寄生 茎率(%)	寄生 葉率(%)	発生 圃場率(%)	徘徊 支柱率(%)
2021年 5月31日	4	0	0	0	—	—
7月 1日	4	25.0	2.5	2.1	—	—
8月11日	4	50.0	6.3	2.9	—	—
9月16日	4	25.0	1.3	0.4	50.0	5.0
10月28日	4	25.0	1.3	0.4	25.0	1.3

注) 調査方法：各圃場 20 茎の上部と中部、下部の各 1 葉の計 3 葉/茎に寄生しているハダニ類の寄生有無を調べた。また、9 月 16 日以降、各圃場においてフラワーネットを支えている 20 本の支柱上部先端について、ハダニ類の徘徊の有無を調べた。なお、圃場で見つかったハダニ類は全てナミハダニであった。

V) 病害虫発生程度別面積 2021 (R.3)

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
普通期水稻	16,800	苗立枯病	0	0	5	35	40	13,300	13,300	
		苗いもち	0	0	0	20	20	0	0	
		葉いもち	1	50	525	1,905	2,481	12,000	13,000	
		穂いもち	1	30	250	1,350	1,631	8,500	10,500	
		紋枯病	1	50	425	5,000	5,476	6,000	7,500	
		白葉枯病	0	0	0	5	5	0	0	
		ばか苗病	0	0	1	14	15	13,200	13,200	
		もみ枯細菌病	0	0	1	15	16	100	100	
		もみ枯細菌病 (種子消毒)	0	0	0	0	0	0	0	
		ごま葉枯病	5	20	200	3,500	3,725	-13,200	-13,200	
		黄化萎縮病	0	0	0	7	7	-5,000	-5,000	
		縮葉枯病	0	1	5	14	20	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		稲こうじ病	0	0	7	225	232	500	500	
		ニカメイガI	0	0	0	2,000	2,000	-13,000	-13,000	
		ニカメイガII	0	0	0	2,000	2,000	-10,000	-10,000	
		セジロウンカ	0	0	743	10,780	11,523	-15,000	-15,000	
		トビイロウンカ	0	0	0	1,115	1,115	15,000	15,000	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	10,729	10,729	-18,000	-18,000	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	4,359	4,359	-15,000	-15,000	
		イネミギワバエ	0	0	0	800	800	-13,000	-13,000	
		イネドロオウムシ	0	0	0	60	60	-13,000	-13,000	
		イネゾウムシ	0	0	0	600	600	-13,000	-13,000	
		イネクロカメムシ	1	10	20	140	171	130	130	
		斑点米カメムシ類	0	439	0	5,700	6,139	10,100	10,100	
		イチモンジセセリ	0	0	0	100	100	0	0	
		フタオビコヤガ	0	0	0	100	100	0	0	
イネヨトウ	0	0	0	50	50	0	0			
アワヨトウ	0	0	0	50	50	0	0			
コブノメイガ	0	0	0	633	633	0	0			
イネミズゾウムシ	1,900	317	0	7,283	9,500	13,000	13,000			
さび病類	0	0	1	2	3	0	0			
うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0			
赤かび病	0	0	0	2	2	600	1,200			
黒節病	0	3	17	150	170	0	0			
麦	688									

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
大豆	783	アブラムシ類	0	0	15	70	85	300	350	
		ハスモンヨトウ	1	10	80	300	391	500	650	
		吸実性カメムシ類	1	10	110	300	421	450	600	
		黒斑病	0	4	6	27	37	35	455	
		黒星病	0	0	4	17	21	66	462	
		ナシヒメシンクイ	0	0	2	10	12	65	130	
		モモシンクイガ	0	0	0	10	10	65	130	
		ハマキムシ類	0	1	10	40	51	65	130	
		ハダニ類	0	1	20	34	55	65	195	
		カマムシ類	0	1	15	24	40	65	195	
かき	300	カイガラムシ類	0	0	0	10	10	65	65	
		アブラムシ類	0	0	5	10	15	65	65	
		ニセナシサビダニ	5	10	15	20	50	65	195	
		炭そ病	1	3	7	21	32	250	1,500	
		うどんこ病	5	10	21	95	131	250	750	
		落葉病類	0	2	13	35	50	250	750	
		カキノヘタムシガ(カキミガ)	0	0	10	60	70	250	500	
		カイガラムシ類	1	10	40	70	121	250	750	
		カメムシ類	1	5	44	100	150	250	1,000	
		ハマキムシ類	0	15	40	35	90	250	500	
夏秋キヤバツ	52	チャノキイロアザミウマ	0	0	30	40	70	250	500	
		カキクダアザミウマ	0	0	0	50	50	250	500	
		黒腐病	0	0	1	11	12	26	52	
		菌核病	0	0	0	8	8	26	52	
		アブラムシ類	0	1	2	9	12	30	80	
		モンシロチョウ	0	0	2	7	9	50	200	
		コナガ	0	1	3	29	33	50	200	
		ヨトウガ	0	1	2	7	10	50	200	
		オオタバコガ	0	1	2	12	15	50	200	
		ハスモンヨトウ	0	2	10	25	37	50	200	
冬キヤバツ	130	シロイチモジヨトウ	0	1	3	12	16	50	200	
		黒腐病	0	0	3	15	18	40	60	
		菌核病	0	0	3	15	18	45	90	
		アブラムシ類	0	1	1	10	12	100	150	
		モンシロチョウ	0	0	5	20	25	120	240	
		コナガ	0	1	4	37	42	120	240	
		ヨトウガ	0	1	15	20	36	120	240	
		オオタバコガ	0	0	1	10	11	120	240	
		ハスモンヨトウ	0	6	15	60	81	120	240	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
タマネギ	119	白色疫病	0	0	7	32	39	79	316	
		べと病	0	3	15	52	70	119	714	
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	21	21			
イチゴ	18	灰色かび病	0	0	1	3	4	18	60	
		うどんこ病	0	0	0	4	4	18	80	
		炭疽病	0	0	2	6	8	18	60	
		アブラムシ類	0	1	4	11	16	18	36	
		アザミウマ類	0	0	2	7	9	18	36	
		ハダニ類	1	1	6	7	15	18	72	
きく	8	白さび病	0	0	0	2	2	8	40	
		ハダニ類	0	1	1	5	7	8	64	
		アザミウマ類	0	0	1	5	6	8	64	
		アブラムシ類	0	0	1	7	8	8	56	

VI) 病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析(2021・R3年)

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	いもち病	葉いもち 平年並 穂いもち 平年並	葉いもち やや多い 穂いもち やや多い	葉いもちの初発生は6月25日に認められた。7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、一部地域で葉いもちの発生が多く、発生ほ場率が15.7%(平年9.1%)、発病株率が8.2%(平年3.2%)と平年に比べて高かった。県内の一部で発病程度の高いほ場も見られ、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。穂いもちも平年並みの8月上旬に確認された。8月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は10.0%、発病株率が1.8%と平年に比べてやや高かった。	BLASTAM(アメダス観測15地点)による6月の感染好適日の出現回数は25回(平年23.7回)と平年並みであったが、7月に入ってから感染好適日が頻繁に出現し、第5半旬までに35回(平年26.6回)と平年に比べてやや多く、葉いもちの発生を助長したものと考えられる。出穂期前の第6半旬には感染好適日は出現しなかったが、8月の出現回数が19回(平年13.8回)と平年に比べてやや多かったことから、穂いもちの発生が助長されたものと考えられる。	常習発生地では育苗箱施薬が行われた。また、発生に応じ薬剤散布が行われた。
	紋枯病	平年並	平年並	初発生は7月5日に認められた。7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が4.3%(平年14.7%)、発病株率が0.7%(平年1.9%)と平年に比べて低かった。8月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は20.0%、発病株率は2.0%と平年に比べてやや低かったが、県内の一部で発病程度の高いほ場も見られ、全般の発生量は平年並みであった。	前年の発生量がやや少なく、伝染源量がやや少なかったこと、生育初期の茎数がやや少なく推移したことから、初期の発生が少なかったものと考えられる。8月上旬以降、気温はやや低く推移したが、降雨頻度が多く、風害等により倒伏被害を生じたことから上位進展が助長されたものと考えられる。	育苗箱施薬や発生に応じて出穂期までに薬剤散布が行われた。
	縞葉枯病	平年並	平年並	初発生は7月13日に認められた。県内の一部地域で発病程度の高いほ場が見られたが、再生稲の調査(120ほ場)における発生ほ場率は6.7%、発病株率は1.0%で、全般の発生量は平年並みであった。	ヒメトビウンカの越冬世代幼虫の保毒虫率は、定点調査では0%(平年1.3%)と極めて低く、県内全域での発生は少なかったものと考えられる。前年発生が多かった一部地域では、保毒虫が越冬していたものと考えられる。	過去に縞葉枯病が多発生した地域では、箱施薬剤等による媒介虫のヒメトビウンカに対する防除が行われた。
	稲こうじ病	平年並	平年並	県内で例年発生が多いきぬむすめ栽培ほ場における調査(115ほ場)では、9月上旬の発生ほ場率が20.9%、発病株率が1.6%と平年並みであった。	前年の発生量はやや少なかったが、きぬむすめの穂ばらみ期から出穂期にあたる8月上旬～中旬の降水量が平年に比べて多く、気温がやや低く推移したことから、全般の発生量は平年並みとなったものと考えられる。	常習発生地では発生に応じ薬剤散布が行われた。
	ばか苗病	平年並	平年並	巡回調査(70ほ場)では発生は認められなかった。全般の発生量は平年並みであった。	種子更新及び種子消毒の実施により、発生が抑制されたものと考えられる。	種子消毒が行われた。
	もみ枯細菌病	平年並	平年並	9月上旬のきぬむすめ栽培ほ場における調査(115ほ場)では、発生ほ場率が6.1%、発病株率が0.1%と平年並みであった。県内の一部で発病程度の高いほ場も見られた。	きぬむすめの出穂期前後にあたる8月上旬～下旬の気温は平年に比べてやや低く推移したが、降水量が平年に比べて多く、全般の発生量は平年並みとなったものと考えられる。	種子消毒及び穂いもちとの同時防除が行われた。
	イネミズゾウムシ	早い	やや多い	前年の新成虫発生量はやや多かった。5月中旬の巡回調査では発生ほ場率が37.0%(平年25.6%)、50株当たり寄生虫数が0.96頭(0.56頭)と平年と比べやや多く、その後もやや多く推移した。	前年発生した新成虫の数がやや多く、越冬成虫がやや多くなったと考えられた。また発生も早かったため、寄生虫数が多くなったものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。
	コブノメイガ	平年並	平年並	現地ほ場の成虫の発生は平年並みであった。7月中旬の巡回調査では発生ほ場率が3.7%(平年8.0%)、25株当たり被害株率が0.2%(平年1.7%)と平年並みであった。その後も発生ほ場率、25株当たりの被害株数は平年並みであった。全般の発生量は平年並みだった。	飛来時期、飛来数ともに平年並みであり、全般の発生量も平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。
	セジロウンカ	早い	多い	現地ほ場の成虫の発生は5月第5半旬と平年に比べて早く、発生ほ場率が2.2%(平年1.1%)、50株当たり虫数が0.02頭(平年0.02頭)と平年に比べてやや多かった。7月中旬において発生ほ場率が97.8%(平年59.7%)、50株当たり虫数が30.4頭(平年57.6頭)と平年並みであった。7月下旬において発生ほ場率が93.5%(平年65.3%)、50株当たり虫数は122.2頭(平年18.6頭)と、全般の発生量は平年に比べて多かった。なお、予察灯での初飛来は5月18日と平年に比べて早く、その後の飛来量は平年に比べてやや多く経過した。	飛来時期は平年に比べて早く、飛来数もやや多かったため、全般の発生量は平年に比べて多くなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。
ツマグロヨコバイ	平年並	やや少ない	6月下旬の調査では発生ほ場率が10.9%(平年27.9%)、50株当たり虫数が0.4頭(平年1.8頭)と平年に比べて少なかった。7月中旬の調査では発生ほ場率が23.9%(平年51.8%)、50株当たり虫数が2.6頭(平年8.5頭)、その後、発生量も平年と比べてやや少なく推移した。なお、予察灯での飛来量は平年に比べてやや少なく経過した。	ほ場における発生量が平年と比べてやや少なく、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われていることもあり、全般の発生量は平年よりやや少なくなったものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	

トビイロウンカ	平年並	平年並	ほ場での成幼虫の発生は8月下旬の巡回調査では発生ほ場率が6.5%(平年35.2%)、50株当たり虫数が0.3頭(平年15.6頭)と平年並みであった。全般の発生量は平年並みに推移した。	飛来時期、飛来数ともに平年並みであり、全般の発生量も平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。	
ニカメイガ	第1世代 平年並 第2世代 平年並	第1世代 平年並 第2世代 平年並	予察灯での初誘殺は4月第6半旬と平年並み、第1世代全般の誘殺数は平年並み、6月下旬のほ場での被害株率は平年並みだった。予察灯での第2世代全般の誘殺数は平年並み、7月下旬のほ場での被害株率は平年並みだった。	第1世代全般の誘殺数は平年並みであり、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており、平年並みに推移したものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
斑点米カメムシ類	平年並	平年並	6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で発生量は17.4頭/20回振り(平年9.5頭)と平年に比べてやや多かった。7月中旬の出穂ほ場調査では、ほ場率は75.8%(平年83.2%)、発生量は2.8頭/20回振り(平年8.0頭)と平年と比べやや少なかった。7月下旬では、ほ場率61.9%(平年55.4%)、発生量は6.6頭/20回振り(平年2.9頭)と平年と比べてやや多かった。8月下旬の調査では、ほ場率は35.9%(平年35.9%)、発生量は0.9頭/20回振り(平年6.3頭)と平年に比べてやや少なかった。全般の発生量は平年並みに推移した。主な発生種はアカスジカスミカメであった。予察灯でのアカスジカスミカメ誘殺数は平年並みであった。	6月下旬のほ場周辺雑草地および7月下旬の出穂ほ場調査での発生量は平年に比べてやや多かったが、8月下旬の調査では平年に比べてやや少なかった。本田防除が発生に応じて行われ、また予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数が平年並みであったことから、全般の発生量は平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて穂揃い・乳熟期～糊熟期に薬剤散布が行われた。	
ヒメトビウンカ	平年並	やや多い	4月中旬耕起前水田内の越冬世代成幼虫すくい取り調査では発生ほ場率20.0%(平年34.8%)、捕獲数が0.3頭/20回振り(平年1.2頭)と平年並みであった。6月下旬の調査では発生ほ場率34.8%(平年28.5%)、50株当たり虫数3.2頭(平年1.2頭)と平年に比べてやや多かった。	田植え以降ほ場内への飛び込みが多く、平年に比べて多く推移したものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
フタオビコヤガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	発生量は平年並みであり、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており平年並みに推移したと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
ムギ	さび病	平年並	やや少ない	コムギ赤さび病は一部地域で発病程度の高いほ場があったが、全般の発生量は平年並みであった。オオムギの小さなさび病の発生は確認できなかった。	赤さび病、小さなさび病は近年発生が少ない～平年並みであることから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
	赤かび病	平年並	コムギ少ない オオムギ少ない	オオムギ、コムギとも全般の発生量は平年に比べて少なかった。	オオムギ、コムギとも出穂期前後に感染に好適な気象条件が出現しなかったため発生が少なかったものと考えられる。	ムギの種類に応じて出穂期以降、薬剤散布が実施された。
	うどんこ病	—	少ない	オオムギ、コムギとも巡回調査では発生を確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は7月末まではやや少から平年並みに推移し、8月から9月下旬まではやや多かった。白変葉の発生は8月中旬と平年並みで、1a当りの白変葉数は8月末は平年並みで、以降はやや多かった。全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	成虫の飛来量が8月以降平年並みから多くなったことから、全般の発生量はやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	平年並	やや少ない	黄色水盤におけるアブラムシ類の誘殺状況は平年に比べて6月は少なく、7月は平年並み、8月はやや少なく、9月は平年並みであった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量はやや少なかった。	播種時に施用されるネオニコチノイド系薬剤や、吸蜜性カメムシ類と食葉性チョウ目に施用される合成ピレスロイド系薬剤とネオニコチノイド系薬剤は、アブラムシ類(ダイズアブラムシおよびジャガイモヒゲナガアブラムシ)に防除効果が高いことや梅雨明け後の高温と多雨により、全般の発生量がやや少なくなったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	吸蜜性カメムシ類	平年並	平年並	県内各地で発生がみられ、全般の発生量は平年並みであった。	冬期の高温により越冬量が多く、8月上旬まで気温が高かったため発生を助長したと考えられた。一方、7月中旬、8月中旬には多雨となり密度が抑制され全体の発生量は平年並みとなった。	落花後から10日おきに2回程度、薬剤散布が行われた。

ナシ	黒斑病	平年並	平年並	一部多発園もみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	7月上中旬の長雨で一部多発園が認められたが、その後定期的に薬剤防除が行われ、発生量は平年並みになったと考えられる。	袋かけ時期を中心に薬剤散布がよく行われた。以後、収穫期まで薬剤散布が行われた。
	黒星病	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	4～5月の袋かけ期まで降水量が少なく推移したが、5月下旬は降水量が多かったため、発生量が平年並みになったと考えられる。	開花期から袋かけ期を中心に薬剤防除が行われた。
	ナシヒメシクイ	やや早い	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期はやや早かった。誘殺数は越冬世代はやや多かったが、以降は平年並みであった。果実の被害は全般には平年並みであった。	越冬世代成虫の発生時期はやや早かった。前年の発生量は平年並みであったが冬期が平年よりも暖かかったため越冬量はやや多くなった。5月以降、気温は高く推移したが降水量も多かったため平年並みになったと考えられる。本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みになったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。
	モモシクイガ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。また、誘殺数、果実被害とも全般に平年並みであった。	前年の発生は平年並みで、越冬世代成虫の発生量も平年並みと考えられる。春先から気温が高く推移したが、発生時期は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みになったと考えられる。	ナシヒメシクイ、ハマキムシ類との同時防除が行われた。
	ハマキムシ類	やや早い	やや多い	フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキ、チャハマキ越冬世代の発生時期は、やや早かった。トラップによるチャハマキおよびチャノコカクモンハマキの誘殺数はやや多かった。幼虫による被害は平年並みであった。	越冬世代の発生時期はチャハマキは平年並み、チャノコカクモンハマキはやや早かった。9月は気温が高く、降水量は少なく推移したためチャハマキ、チャノコカクモンハマキの発生は多くなった。6月以降基幹防除が行われ、被害量は平年並みになったと考えられる。	ナシヒメシクイ、モモシクイガとの同時防除が行われた。
	ハダニ類	平年並	平年並	4月下旬は花叢への寄生率は平年に比べてやや少なかった。5～7月は増加傾向を示した。しかし8月は減少して平年に比べて少なかった。全般の発生量は平年並みであった。	カンザワハダニの越冬量はやや少なく、4月下旬にクワオオハダニの花叢への寄生がみられた。生育初期の発生量は平年に比べてやや少なかった。その後、5～7月の気温が高く増加傾向を示した。8月は降雨量が多かったため、少なくなったと考えられる。発生に応じて殺ダニ剤が散布され被害は平年並みとなった。	5月下旬～6月、7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。
	クワコナカイガラムシ	—	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	定期防除により発生が平年並みに抑えられた。	防虫果袋が使用された。
	アブラムシ類	平年並	やや少ない	越冬成虫の発生時期は平年並みとなった。5月上旬の新梢への寄生程度は平年に比べてやや少なかった。全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	4月から気温が高く推移したが、降水量も多かったため発生量はやや少なく推移したものと考えられる。発生時期は平年並みであった。	5～6月に薬剤散布が行われた。
	カメムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでは5月7日から、予察灯では5月15日から誘殺された。その後、8月まで平年並みであった。8月の中旬～下旬に誘殺数が多く確認されたが、以降は平年並みであった。被害は平年並みであった。主要なカメムシ類の発生種はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシであった。	前年はヒノキ毬果が平年並みであったため、カメムシ類の越冬量は平年並みと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量は平年並みであり、飛来時期は平年並みと考えられた。8月下旬に発生量が増加したが、防除も行われ、また有袋栽培のため果実被害は平年並みとなった。	7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。
カキ	炭疽病	早い	多い	8月下旬までは平年並みで推移していたが、9月に発生が急増し、発生量は多くなった。	8月から9月上旬の降水量が平年に比べて多かったため、9月に発生量が多くなったと考えられる。	梅雨期と8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	平年並	平年並	7月以降に発生が認められ、発生量は平年並みに推移した。	8月の気温が平年に比べて低かったため、発生量が多くなると懸念されたが、防除効果の高い薬剤が適期に散布され、発生量が平年並みにとどまったと考えられる。	8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	落葉病類 (円星落葉病)	平年並	平年並	9月以降に発生が認められ、発生量は平年並みであった。	5月中下旬と7月上中旬の降水量が平年に比べて多かったが、防除効果の高い薬剤が適期に散布され、発生量が平年並みにとどまったと考えられる。	5～7月に薬剤散布が行われた。
	カキミガ	平年並	平年並	果実での発生量、被害量とも平年並みであった。	防除効果の高い薬剤が適期に散布されたためと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	ハマキムシ類	やや早い	やや多い	フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキ、チャハマキ越冬世代の発生時期は、やや早かった。トラップによるチャハマキおよびチャノコカクモンハマキの誘殺数はやや多かった。幼虫による被害は平年並みであった。	越冬世代の発生時期はチャハマキは平年並み、チャノコカクモンハマキはやや早かった。9月は気温が高く、降水量は少なく推移したためチャハマキ、チャノコカクモンハマキの発生は多くなったと考えられる。6月以降基幹防除が行われ、被害量は平年並みになったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。

カメムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでは5月7日から、予察灯では5月15日から誘殺された。その後、8月まで平年並みであった。8月の中旬～下旬に誘殺数が多く確認されたが、以降は平年並みであった。被害は平年並みであった。主要なカメムシ類の発生種はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシであった。	前年はヒノキ毬果が平年並みであったため、カメムシ類の越冬量は平年並みと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量は平年並みであり、飛来時期は平年並みと考えられた。8月中旬から9月は気温が高くほ場への飛来は続いたが、防除も行われ、果実被害は平年並みとなった。	7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。	
カイガラムシ類	平年並	平年並	フジコナカイガラムシの性フェロモントラップでは越冬世代が5月上旬から誘殺された。その後、第1世代は7月上旬、第2世代は8月下旬から誘殺された。一部ほ場では発生が多く被害が確認されたが、全体の発生量、被害は平年並みであった。	越冬世代の発生時期は平年並みとなった。各世代の幼虫発生時期に合わせ防除を行ったため被害も平年並みとなったと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。	
カキクダアザミウマ	平年並	平年並	5月7日に被害捲葉の発生を認めた。発生量は平年並みであった。第1世代成虫は6月第5半旬から粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。被害量は平年並みであった。	越冬成虫の飛来量が平年並みであったこと、成虫飛来時期の薬剤散布と被害捲葉の除去などの防除対策により、果実被害の発生量は平年並みとなったと考えられる。	越冬成虫飛来期の薬剤散布と捲葉の切除が行われた。	
アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ)	平年並	平年並	チャノキイロアザミウマが主要種となった。5月下旬に粘着トラップに初誘殺され、その後の誘殺数は平年並みであった。被害は平年並みであった。	全体の発生量は平年並みであった。摘果と薬剤散布により被害は平年並みとなったと考えられる。	6月上旬に薬剤散布が行われた。	
夏秋キャベツ	黒腐病	平年並	やや多い	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	結球期に当たる8月～9月上旬の降水量が平年に比べて多く、また食葉性害虫等による葉の傷害も多かったことから、感染機会が多々あったものと推察された。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	8月初めに台風が通過したが、7月から続いていた雨の影響から定植しているほ場は少なく、影響が少なかったものと推察された。近年の傾向として発生量がやや少ないことから、伝染源量が減少し発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	-	やや少ない	8月中旬から下旬の黄色水盤による有翅虫の誘殺数はやや少なかったが、その後は平年並みであった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量はやや少なかった。	有翅虫の飛来数は平年並みであったが、他害虫に対する薬剤防除との同時防除によりやや少ない発生量になったものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	-	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	-	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジヨトウ	-	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数はやや多かった。ほ場での発生も確認された。	成虫の飛来量がやや多かったため、やや多い発生となったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	オオタバコガ	-	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は平年並みであった。ほ場では平年並みの発生を認めた。	成虫の飛来量が平年並みであったため、平年並みの発生となったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	コナガ	-	平年並	幼虫の発生量は8月末はやや多かったが、9月末には平年並みとなり、全般の発生量は平年並みであった。	8月までの成虫の飛来はやや多かったと考えられたが、ハスモンヨトウの多発生に対する薬剤散布が多かったため、同時防除により全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫（ハスモンヨトウ）との同時防除が行われた。一部ほ場では交信かく乱剤による防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	-	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は8月から9月第5半旬までやや多く推移した。8月下旬と9月下旬の発生ほ場率、寄生株率ともに平年に比べてやや高かった。全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	8月から9月第5半旬までの成虫飛来量がやや多かったことから、発生量がやや多くなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）による防除のほか、発生に応じて薬剤散布が行われた。
冬キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	-	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	-	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	-	やや少ない	8月中旬から下旬の黄色水盤による有翅虫の誘殺数はやや少なかったが、その後は平年並みであった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量はやや少なかった。	有翅虫の飛来数は平年並みであったが、他害虫に対する薬剤防除との同時防除によりやや少ない発生量になったものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	-	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	-	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジヨトウ	-	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数はやや多かった。ほ場での発生も確認された。	成虫の飛来量がやや多かったため、やや多い発生となったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。

オオタバコガ	—	—	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は平年並みであった。ほ場では平年並みの発生を認めた。	成虫の飛来量が平年並みであったため、平年並みの発生となったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。	
コナガ	—	—	—	平年並	幼虫の発生量は8月末はやや多かったが、9月末には平年並みとなり、全般の発生量は平年並みであった。	8月までの成虫の飛来はやや多かったと考えられたが、ハスモンヨトウの多発生に対する薬剤散布が多かったため、同時防除により全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫（ハスモンヨトウ）との同時防除が行われた。一部ほ場では交信かく乱剤による防除が行われた。	
ハスモンヨトウ	—	—	—	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は8月から9月第5半旬までやや多く推移した。8月下旬と9月下旬の発生ほ場率、寄生株率ともに平年に比べてやや高かった。全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	8月から9月第5半旬までの成虫飛来量がやや多かったことから、発生量がやや多くなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）による防除のほか、発生に応じて薬剤散布が行われた。	
タマネギ	白色疫病	—	—	平年並	やや多い	3月下旬における発生ほ場率は33.3%（平年23.9%）、発病率は1.9%（平年1.5%）となった。全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	12月末に積雪があったため1月から県内各地で発生が認められた。その後、降水量は少なく推移したが、早期に発生した影響から全般の発生量は平年に比べてやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	べと病	—	—	平年並	平年並	3月下旬における越冬罹病株の発生量は6.4株/1万株（平年6.0株/1万株）、発生ほ場率は33.3%（平年26.5%）と平年に比べてやや多かった。その後、二次感染株の発生が県内各地で認められたが、5月下旬における発生ほ場率は60.0%（平年63.8%）、発病率は10.4%（平年17.0%）と平年並みであった。	2～3月の気温が平年に比べて高く、タマネギの成長が早まり越冬罹病株の発生も早期化した。4～5月の気象は発病に不適であったため発生が抑えられ、全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	越冬罹病株の抜き取りや発生に応じた薬剤散布が行われた。
イチゴ	灰色かび病	—	—	やや早い	やや少ない	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	12月から発生が認められていたが、2～3月の気温が平年に比べて高くハウスを閉め切ることが無かったためハウス内の湿度が下がり発生が抑えられ、全般の発生量は平年に比べてやや少なくなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	うどんこ病	—	—	平年並	やや少ない	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	近年の傾向として発生量がやや少なく、また適切に防除が行われていることから、伝染源量・感染機会が減少し発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	炭疽病	—	—	平年並	やや多い	県内各地で発生が認められ、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	7～8月の降水量が平年に比べて多く、湿度が高く推移し灌水時の水が乾きにくかったことから全般の発生量は平年に比べてやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	—	—	やや多い	促成、半促成栽培において、3月と4月の発生量は全般にはやや多かった。	前年秋（2020年9-10月）の黄色水盤へのアブラムシ類の飛来数が214頭（平年330.6頭）とやや少なく、苗定植時の寄生がやや少なかったと考えられる。しかし、1月下旬から4月上旬までの気温が高かったことも発生がやや多くなった一因と思われる。	定植時とその後は発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	—	平年並	—	促成、半促成栽培において、3月と4月の発生量は全般には平年並みであった。	1月下旬から4月上旬までの気温が高く、増殖には好適であったが、的確な防除により発生量が平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	—	平年並	—	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	1月下旬から4月上旬までの気温が高く、増殖には好適であったが、防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
キク	白さび病	—	—	平年並	—	一部ほ場で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	—	平年並	—	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	—	—	平年並	—	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	—	平年並	—	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。

VII) 情報の提供、諸報告に関する事項

1. 情報の提供方法及び提供先

1) 郵送（*印は注意報のみ）

○国関係

農林水産省 消費・安全局植物防疫課、同中国四国農政局 消費・安全部 安全管理課植物防疫係、
気象庁松江地方气象台

○国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター、同果樹茶業研究部門、
同ブドウ・カキ研究拠点、同西日本農業研究センター

○他県関係

*鳥取、*岡山、*広島、*山口、*徳島、*香川、*愛媛、*高知、各県担当課

○県内関係

農業技術センター、島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、
同矢上高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館

○県内団体

島根県農業協同組合、農業振興協会

○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局（出雲市役所記者
室）、NHK松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ総局、山陰中央テレビ放送局、
同出雲通信部、日本海テレビ、同出雲通信部

2) F A X

○県内関係

中山間地域研究センター

○報道機関

日本農業新聞中国四国支所、出雲ケーブルテレビジョン、石見ケーブルテレビ

3) メール

島根県農林水産部 農業経営課、同農産園芸課、同農畜産課、東部農林振興センター、
西部農林振興センター、各農業普及部（松江、浜田、安来、雲南、出雲、邑智、大田、益田）、
隠岐支庁農林水産局、農林大学校、各市町村、全国農業協同組合連合会中四国営農資材事業所、
島根県農薬卸商協会、各病虫害防除員、日本農業新聞松江支局

4) ホームページ

発生予察情報（発生予報、特殊報、注意報、臨時情報）

2. 発表状況

1) 発生予察情報の発表状況

種類	発表回数	発表部数	対象病害虫
発生予報	8回	200部	○イネ 葉いもち（2回）、穂いもち（3回） 紋枯病（4回）、白葉枯病（3回） もみ枯細菌病（1回）、縞葉枯病（2回） 黄化萎縮病（1回）、ヒメトビウンカ（4回） ニカメイチュウ（5回）、ツマグロヨコバイ（4回） イネミズゾウムシ（3回）、セジロウンカ（4回） トビイロウンカ（4回）、コブノメイガ（3回） 斑点米カメムシ類（4回）
			○ムギ うどんこ病（2回）、赤かび病（2回） さび病類（2回）
			○ダイズ ハスモンヨトウ（2回）
			○ナシ 黒斑病（7回）、黒星病（4回） シンクイムシ類（6回）、ハマキムシ類（3回） ハダニ類（7回）、アブラムシ類（2回） カメムシ類（2回）
			○カキ 円星落葉病（1回）、うどんこ病（3回） 灰色かび病（1回）、カキミガ（3回） チャノキイロアザミウマ（1回） カメムシ類（3回）、カキクダアザミウマ（2回）
			○果樹全般 カメムシ類（2回）
			○キャベツ 黒腐病（1回）、菌核病（1回）
			○アブラナ科 野菜 アブラムシ類（1回）、コナガ（2回） アオムシ（1回）、ハスモンヨトウ（3回）
			○タマネギ ボトリチス属菌による葉枯れ（3回） べと病（3回）、腐敗病・軟腐病（3回） 白色疫病（1回）
			○イチゴ 灰色かび病（2回）、うどんこ病（2回） アブラムシ類（2回）、ハダニ類（2回）
特殊報	2回	200部	○キャベツ トビイロシロアリ
			○ネギ ネギハモグリバエB系統
技術情報	3回	200部	○タマネギ べと病
			○タマネギ 腐敗病・軟腐病
			○水稲 斑点米カメムシ類

3. 発表内容

1) 特殊報

- (1) 第1号（令和3年10月1日） キャベツ：トビイロシロアリ
(2) 第2号（令和3年11月17日） ネギ : ネギハモグリバエ B系統

2) 技術情報

- (1) 第1号（令和3年4月2日） タマネギ：べと病
(2) 第2号（令和3年4月2日） タマネギ：腐敗病・軟腐病
(3) 第3号（令和3年8月2日） 水稲 : 斑点米カメムシ類

【問合せ先】

島根県病害虫防除所 担当：奈良井・澤村
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342
(島根県農業技術センター資源環境研究部病虫科内)

令和3年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号

令和3年10月1日
島根県病害虫防除所

本県において、トビイロシワアリの被害が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 トビイロシワアリ
- 2 学名 *Tetramorium tsushimae* Emery
- 3 作物名 キャベツ
- 4 発生経過

令和3年8月に県西部で栽培されているキャベツほ場において、生育不良、萎凋症状を呈する株が認められた。株元の土は盛り上がり（図1）、アリ類が観察された（図3）。株元の盛り上がった土を取り除くと、軸の表皮に食害の跡が見られた（図2, 4）。そこでこれらのアリ類を採集し、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、9月7日にトビイロシワアリと同定された。

5 国内における発生状況

本種による農作物の被害は昭和60年に福岡県で、その後、千葉県（平成19年）や広島県（平成21年）など20都県で確認されている。被害作物はキャベツ、ブロッコリーなどのアブラナ科作物やジャガイモ、ナス、トマトなどのナス科作物のほか柑橘やアスターなども加害する。

6 形態及び特徴

- 1) 働きアリの体長は2.5mm内外、体色は黒褐色、まれに色の薄い褐色の個体がみられる。西南日本では最普通種の一つである。
- 2) 巣は主に草地に見られ、草本類の根元や石下などに営巣する。多雌性かつ多単性で巣は数万～数十万の大規模なコロニーになる。巣口はクレーター状に盛り上がる。雑食性で、昆虫類や植物の甘露、種子、樹液などを摂食する。被害は株元の土が盛り上がり、地際部の茎や根の表皮が加害され、株が萎凋する。加害の激しい株では枯死することもある。

7 防除対策

- 1) 現在、本種に対して登録のある薬剤はない。
- 2) 深耕やほ場周辺の除草、灌水による巣の破壊など、物理的・耕種的防除に努める。

8 連絡先

島根県病害虫防除所（農業技術センター病虫科：0853-22-6772）

9 参考資料



図1 キャベツの萎凋症状



図2 地際部の被害



図3 トビイロシワアリ



図4 軸の被害

【問合せ先】

島根県病害虫防除所 担当：奈良井・澤村
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342
(島根県農業技術センター資源環境研究部病虫科内)

令和3年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号

令和3年11月17日
島根県病害虫防除所

本県において、ネギハモグリバエ B系統の被害が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ネギハモグリバエ B系統
- 2 学名 *Liriomyza chinensis* Kato
- 3 作物名 ネギ
- 4 発生経過

令和3年9月末に県東部で栽培されている白ネギほ場において、ハモグリバエによる激しい被害(図1, 2)が認められた。この被害症状は従来のネギハモグリバエ(以下、A系統)と異なり、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統(B系統)に酷似していた。このため、採集した被害株から幼虫を飼育し、羽化後の成虫を国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析を依頼したところ、10月27日に本県では初確認となるB系統と同定された。

5 国内における発生状況

B系統は平成28年に京都府で確認されて以降、現在まで全国27都府県で発生が認められている。中国地方では鳥取県と山口県で発生が確認されている。

6 被害の特徴

幼虫がネギ葉中に潜り込んで食害し、食害後は白い筋状の潜孔を形成する。B系統はA系統に比べて1葉当たりの幼虫数が多く、被害が激しい場合には葉全体が白化したように見える(図1, 2)。また、雌成虫は産卵管で葉の表面に直径1mm前後の穴をあけ(図3)、そこからにじみ出る汁を摂食したり、葉の中に産卵したりする。

7 形態及び生態等

- 1) A系統とB系統は成虫(図4)の形態での区別は困難で、幼虫の被害状況とmtCOI領域の塩基配列の違いで区別出来る。
- 2) 成虫の体長は2~3mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である(図4)。幼虫は淡黄色のウジ(図5)で、葉中を加害し成長する。終齢幼虫は体長が約3~4mmに達すると葉から脱出して、地表または土中で褐色で俵状の蛹(図6)になる。
- 3) A系統の卵から羽化までの発育日数は20℃で36~40日、25℃で23~26日、30℃で約19日である。
- 4) A系統の被害はネギの他タマネギ、ラッキョウ、ニラ、ニンニク、ワケギで認められている。一方、B系統の被害は現在ネギの他、一部のタマネギで認められている。

8 防除対策

- 1) 発生を認めた場合、被害葉を取り除き、ネギハモグリバエに登録のある薬剤を散布し防除を徹底する。なお、薬剤抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さ等はほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、表面をビニールで被覆する等適切に処分する。

9 参考資料



図1 白ネギの幼虫被害



図2 被害部の拡大



図3 雌成虫の産卵管による被害



図4 ネギハモグリバエ成虫



図5 ネギハモグリバエ幼虫



図6 ネギハモグリバエ蛹

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・澤村]

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

令和3年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号

令和3年4月2日
島根県病害虫防除所

タマネギベと病の発生状況について

タマネギベと病の伝染源となる越冬罹病株が平年に比べてやや多く、発病株率の極めて高いほ場も確認されています。今後、本病の多発が懸念されます。

現地では発生状況を把握し、越冬罹病株の抜き取り、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 3月下旬の巡回調査では、越冬罹病株の発生ほ場率が33.3%（平年26.5%）、1万株当たりの発病株数は6.4株（平年6.0株）と過去10年で3番目に多い（図1）。今後、多発生ほ場及び周辺ほ場では、甚大な被害を受ける可能性がある。
- 2) 中国地方1か月予報（4月3日～5月2日、広島地方气象台4月1日発表）によると向こう1か月の降水量、日照時間が平年並みであることから、本病の発生を特に抑制する要因とはならないと考えられる。

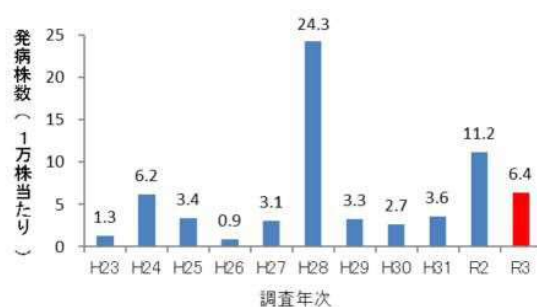


図1 タマネギベと病越冬罹病株の1万株当たりの発病株数（3月下旬調査）

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 越冬罹病株（図2）は継続的に胞子を形成し、重大な伝染源となるため、抜き取ってほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 越冬罹病株が認められた場合には、感染拡大防止のため、直ちに薬剤による防除を行う。



図2 タマネギベと病越冬罹病株（赤粋）

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・澤村]

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

令和3年度 病害虫発生予察情報 技術情報第2号

令和3年4月2日
島根県病害虫防除所

タマネギ腐敗病・軟腐病の発生状況について

タマネギの腐敗病・軟腐病が平年に比べて発生が多く認められました。また、発生助長要因である強風による葉の傷みも散見されています。今後、被害の拡大が懸念されま

す。

現地では発生状況を把握し、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

1. 発生状況と今後の予想

1) 3月下旬の巡回調査では、軟腐病・腐敗病の発生ほ場率が46.7%（平年19.0%）、発病株率が1.81%（平年0.7%）と過去10年で2番目に多い（図1）。多発生ほ場では、今後甚大な被害を受ける可能性がある。

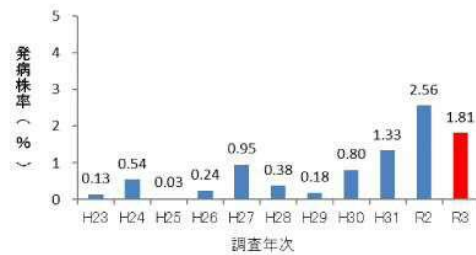


図1 タマネギ腐敗病・軟腐病の発病株率 (%) (3月下旬調査)

2) 中国地方1か月予報（4月3日～5月2日、広島地方气象台4月1日発表）によると向こう1か月の降水量、日照時間が平年並みに推移することから、本病の発生を特に抑制する要因とはならないと考えられる。

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 伝染源となる発病株（図2）を早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 発病株が認められるほ場では、感染拡大防止のため、薬剤による防除を行う。
- 3) 両病害とも病原細菌は、主に傷口から感染するため、強風や雹害後に薬剤散布を行う。
- 4) 除草などの管理作業を行う際は、タマネギに傷を付けないよう注意する。
- 5) 貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行い収穫物に傷を付けないよう管理する。



図2 発病株

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・澤村]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

令和3年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号

令和3年8月2日
島根県病害虫防除所

水稲における斑点米カメムシの発生状況について

斑点米カメムシ類（主にアカスジカスミカメ）の発生が平年に比べて多くなっています。すでに出穂したほ場ではカメムシ類が高密度に生息するほ場が認められます。今後、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除及び雑草管理をお願いします。

1 現在の発生状況

- 1) 7月下旬における出穂した水田の調査において、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は61.9%（平年58.2%）、平均頭数は6.62頭/20回振り（平年3.11頭）と平年に比べてやや多い。優占種はアカスジカスミカメであった。
- 2) 出雲市の予察灯（60W白熱灯）におけるアカスジカスミカメ（図1）とアカヒゲホソミドリカスミカメを合計した累計誘殺数が、7月第5半旬までに272頭（平年199.6頭）と平年に比べてやや多い。（図2）
- 3) 中国地方1か月予報（7月31日～8月30日、広島地方气象台7月29日発表）によると向こう1か月の気温は平年に比べて高い確率が50%、降水量は平年に比べて少ない確立が40%と、本種の発生に助長的である。



図1 アカスジカスミカメ（成虫）

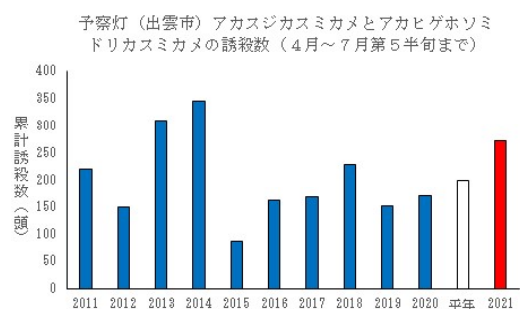


図2 アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメの合計誘殺数

2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。粒剤による防除は出穂期～7日後に3cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後は発生に応じて散布する。
- 2) ほ場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。
- 3) 畦畔などにイネ科雑草がある場合は畦畔を含めて薬剤を散布する。
- 4) 稲の出穂が近くなってからの除草はカメムシを水田内に追い込むことになるので行わない。

Ⅷ) 気象表 (令和3年)

観測地点：出雲市芦渡町2440 (海拔20m)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	4.4	5.6	7.4	9.3	0.9	1.8	7.5	19.0	5.7	9.4
	2	0.5	5.3	3.1	8.9	-2.1	1.5	12.5	20.0	3.1	9.0
	3	6.0	5.0	9.9	8.6	0.8	1.3	5.5	21.3	20.3	8.8
	4	4.0	4.7	8.0	8.3	0.4	1.1	25.5	21.4	8.2	8.6
	5	7.5	4.4	10.4	8.0	4.5	0.9	16.0	20.2	6.8	8.7
	6	5.7	4.3	9.7	7.9	1.1	0.7	20.5	21.4	20.2	11.7
合計, 平均		4.7	4.9	8.1	8.5	0.9	1.2	87.5	123.3	64.3	56.2
2	1	7.0	4.4	10.2	8.2	1.6	0.5	12.0	16.3	16.3	11.3
	2	7.5	4.7	11.9	8.6	2.2	0.6	7.0	16.7	18.1	12.2
	3	9.1	4.9	16.7	9.0	2.7	0.8	23.0	17.7	21.6	13.2
	4	4.7	5.2	8.1	9.5	1.4	0.7	11.5	18.3	12.7	15.0
	5	10.7	5.6	15.6	10.1	5.1	0.9	0.0	18.5	36.4	17.3
	6	6.8	6.0	12.7	10.6	1.5	1.1	5.5	11.5	13.0	10.9
合計, 平均		7.6	5.1	12.5	9.3	2.4	0.8	59.0	99.0	118.1	79.9
3	1	8.9	6.4	16.2	11.0	3.0	1.5	49.5	19.5	12.8	19.1
	2	7.4	6.9	12.5	11.6	3.3	1.9	0.5	19.1	23.1	20.7
	3	8.6	7.4	14.9	12.4	2.2	2.2	21.0	19.3	30.6	22.9
	4	10.6	8.0	15.6	13.2	5.8	2.6	16.5	20.4	34.8	24.2
	5	10.4	8.6	14.9	13.7	4.4	3.0	11.5	20.4	33.7	24.7
	6	13.5	9.4	19.8	14.5	6.1	3.7	5.5	24.0	44.4	31.2
合計, 平均		9.9	7.8	15.7	12.7	4.1	2.5	104.5	122.7	179.4	142.8
4	1	14.7	10.3	21.1	15.6	8.2	4.5	15.5	19.9	33.9	28.0
	2	9.9	11.2	17.2	16.5	3.0	5.3	0.0	19.0	52.9	29.2
	3	12.5	12.2	19.8	17.5	4.1	6.2	0.5	18.5	26.7	30.4
	4	13.4	13.1	19.3	18.6	5.6	7.2	5.0	18.1	36.6	31.3
	5	15.0	14.0	23.3	19.4	8.3	8.0	0.0	18.5	42.8	32.4
	6	14.5	14.9	19.5	20.4	8.2	8.8	15.0	18.7	30.7	33.6
合計, 平均		13.3	12.6	20.0	18.0	6.2	6.7	36.0	112.7	223.6	184.9
5	1	14.6	15.8	19.4	21.4	9.3	9.8	20.0	20.6	29.5	33.9
	2	17.1	16.4	22.0	21.9	10.2	10.5	0.0	24.4	37.5	33.2
	3	19.0	16.9	25.6	22.3	14.2	11.1	7.5	24.2	15.6	33.2
	4	19.1	17.5	22.8	23.1	15.9	11.7	135.5	19.3	8.3	34.5
	5	18.3	18.2	23.1	23.8	13.5	12.3	23.5	16.9	26.0	34.9
	6	18.4	18.8	24.4	24.2	12.4	13.2	19.5	21.4	48.4	40.7
合計, 平均		17.8	17.3	22.9	22.8	12.6	11.4	206.0	126.8	165.3	210.4
6	1	20.1	19.4	26.2	24.8	13.7	14.2	21.5	17.7	30.4	32.5
	2	21.9	20.2	28.5	25.4	15.6	15.3	0.0	18.4	50.7	30.6
	3	22.4	20.9	27.0	25.8	19.4	16.3	68.5	23.7	4.9	28.7
	4	21.2	21.4	25.1	26.1	18.4	17.2	38.0	32.4	18.4	26.3
	5	21.8	22.1	28.3	26.5	16.6	18.2	0.5	42.7	50.2	23.1
	6	23.6	22.9	29.3	27.1	18.9	19.3	0.0	51.8	20.9	21.2
合計, 平均		21.8	21.2	27.4	26.0	17.1	16.8	128.5	186.7	175.5	162.4

月 半月		平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月	1	25.8	23.7	30.7	27.7	21.8	20.2	70.0	53.1	19.7	21.4
	2	25.2	24.4	27.9	28.4	22.9	20.9	132.0	48.7	3.0	23.1
	3	25.8	25.0	29.9	29.1	22.0	21.4	146.0	44.5	37.9	25.9
	4	27.1	25.6	33.5	29.8	22.0	21.8	0.0	36.5	33.4	30.5
	5	28.0	26.2	34.7	30.6	22.0	22.3	0.0	26.1	51.0	34.6
	6	26.9	26.7	33.0	31.3	21.6	22.7	0.0	22.4	74.2	44.3
合計, 平均		26.5	25.3	31.6	29.5	22.1	21.6	348.0	231.3	219.2	179.8
8 月	1	28.8	27.1	36.3	31.9	22.9	22.9	4.0	17.6	57.2	37.4
	2	27.1	27.1	32.4	32.0	23.1	22.9	189.0	21.1	27.9	36.1
	3	22.9	26.8	26.2	31.7	20.5	22.8	190.5	24.7	2.7	34.2
	4	23.7	26.4	28.6	31.2	21.3	22.4	86.5	24.6	10.0	32.9
	5	26.9	25.9	30.4	30.8	23.5	21.9	20.0	24.3	5.1	31.6
	6	26.5	25.3	30.4	30.2	23.0	21.2	9.0	33.6	32.6	35.4
合計, 平均		26.0	26.4	30.7	31.3	22.4	22.4	499.0	145.9	135.5	207.6
9 月	1	22.9	24.5	26.7	29.3	20.6	20.5	54.5	32.8	4.2	27.2
	2	23.8	23.6	28.7	28.4	19.8	19.6	32.5	34.0	27.2	25.9
	3	22.7	22.8	27.1	27.6	19.5	18.7	4.0	32.5	14.6	25.5
	4	22.6	21.8	28.4	26.8	18.3	17.6	17.5	30.0	25.4	25.5
	5	23.3	20.8	28.4	25.9	18.2	16.4	12.0	27.7	38.6	25.3
	6	22.6	19.9	27.6	25.0	19.8	15.4	1.0	25.2	15.3	24.5
合計, 平均		23.0	22.2	27.8	27.2	19.4	18.0	121.5	182.2	125.3	153.9
10 月	1	21.1	19.1	29.1	24.2	14.6	14.5	0.0	21.2	51.5	24.2
	2	22.5	18.2	29.7	23.4	16.7	13.5	0.0	17.6	45.4	25.4
	3	20.0	17.2	24.5	22.6	16.4	12.2	2.5	18.0	19.7	26.6
	4	13.9	16.2	19.2	21.7	10.3	11.1	46.0	20.5	14.0	26.4
	5	12.4	15.3	18.1	20.7	8.3	10.2	10.5	21.2	20.4	24.6
	6	14.1	14.4	21.3	19.7	8.1	9.3	0.0	22.5	40.4	27.8
合計, 平均		17.3	16.7	23.7	22.1	12.4	11.8	59.0	121.0	191.4	155.0
11 月	1	13.5	13.6	20.2	18.9	8.5	8.5	8.0	17.1	27.0	22.7
	2	13.0	13.1	18.7	18.2	8.2	8.1	54.0	17.7	18.4	21.0
	3	11.4	12.2	15.1	17.0	7.3	7.4	20.5	19.6	11.4	18.2
	4	11.2	11.1	18.7	15.8	5.5	6.4	0.0	19.6	38.1	16.4
	5	12.1	10.3	15.3	14.9	8.5	5.6	22.0	18.8	3.5	15.1
	6	9.4	9.6	15.5	14.1	3.3	5.0	14.5	20.9	26.2	13.7
合計, 平均		11.8	11.7	17.3	16.5	6.9	6.8	119.0	113.7	124.6	107.1
12 月	1	8.1	8.7	11.2	13.0	5.2	4.4	5.0	24.0	5.8	12.1
	2	8.6	7.9	15.5	12.0	2.7	3.8	14.5	24.7	28.1	10.7
	3	9.9	7.3	13.9	11.1	5.2	3.4	3.5	22.4	11.2	10.0
	4	7.3	6.9	10.4	10.7	3.6	3.0	32.5	19.9	2.2	10.0
	5	8.8	6.6	13.9	10.4	4.2	2.7	23.0	19.0	20.8	10.0
	6	4.3	6.1	7.0	9.9	1.6	2.2	25.5	22.8	2.3	12.0
合計, 平均		7.8	7.3	12.0	11.2	3.8	3.3	104.0	132.8	70.4	64.8

西暦年の1位が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値を平年値という。これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新する。したがって2021～2030年の間は、1991～2020年(平成3～令和2年)の資料から算出された平年値を使用する。

令和3年度 農作物有害動植物発生予察事業年報
2023年 3月 31日 発行

編集・発行 島根県農業技術センター
(資源環境研究部 病虫科)

島根県病虫害防除所

〒693-0035 島根県出雲市芦渡町2440番地

電 話 (0853) 22-6772

F A X (0853) 24-3342